

令和 7 年 度
事業 報 告

令和 8 年 5 月
公益財団法人 群馬県青少年育成事業団

目 次

I 法 人 の 概 況

	頁
1 設立年月日	1
2 定款に定める目的	1
3 定款に定める事業内容	1
4 主務官庁に関する事項	1
5 主たる事務所・事業所の状況	1
6 役員の役割等に関する事項	1
7 職員に関する事項	2
8 事業団組織図	2

II 事 業 の 概 況

1 事業一覧表	3
(A 指定管理事業 B 自主事業 C 受託事業)	
A 指定管理事業	
(1) 青少年等の活動場所の提供事業	8
(2) 青少年指導者・ボランティア養成事業	14
(3) 青少年の交流・体験活動事業	26
(4) 青少年団体の育成及び指導事業	38
(5) 情報収集・情報提供システム事業	54
B 自主事業	
(1) 青少年活動支援事業	58
(2) 地域連携協力事業	60
(3) 広報事業	64
(4) 補助事業	66
C 受託事業	
青少年自立・再学習支援事業	67
2 重要な契約等に関する事項	71
3 役員会等に関する事項	72

事業報告

I 法人の概況

1 設立年月日
昭和56年11月16日

2 定款に定める目的

この法人は、設立の趣旨を踏まえて、青少年の健全育成に関する諸事業及び青少年団体の育成並びにその事業を行う施設の管理運営を行い、もって本県の次代を担う青少年の健全な育成に寄与することを目的とする。

3 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成を目的とした企画事業
- (2) 青少年及び青少年団体が行う主体的、自主的な活動の支援
- (3) 青少年団体の育成及び助言並びに研修の実施
- (4) 青少年の健全育成に関する資料の収集及び情報の提供
- (5) 青少年の健全育成に関する相談事業
- (6) 青少年の健全育成に関する調査研究
- (7) 青少年の健全育成に関する施設等の管理運営の受託
- (8) その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

4 主務官庁に関する事項

群馬県生活こども部県民活動支援・広聴課 公益法人係

5 主たる事務所・事業所の状況

- (1) 財団事務局：群馬県前橋市荒牧町2番地12 群馬県青少年会館内
- (2) 事業所：群馬県青少年会館

6 役員の役割等に関する事項（令和8年3月31日現在）

- (1) 評議員（6名）
任期：令和5年6月16日から令和9年の定時評議員会終結の時まで

氏名		（あいうえお順） 常勤・非常勤の別
音山 若穂		非常勤
栗原 ウメ子		〃
小林 昭紀		〃
都丸 要		〃
山田 和豊		〃
吉川 真由美		〃

評議員は、評議員会を構成し、法令及び定款で定める事業団の基本的事項を意思決定する。

- (2) 理事（9名）
任期：令和7年6月20日から令和9年の定時評議員会終結の時まで

職	氏名	（理事：あいうえお順） 常勤・非常勤の別
理事長 （代表理事）	大川 由明	非常勤
副理事長	大澤 京子	非常勤
副理事長	齊藤 千春	非常勤
常務理事 （業務執行理事）	金子 勉	常勤
理事	大西 康之	非常勤
理事	関口 利美	非常勤
理事	張 信愛	非常勤
理事	富澤 香	非常勤
理事	大和 佳世子	非常勤

理事は、理事会を構成し、法令及び定款で定めるところにより、職務を執行する。

理事長は、事業団の代表理事として、理事会の決定に基づき業務を統括し、業務を執行する。（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事）

副理事長は、理事長に事故あるとき又は欠けたときは理事長の職務を執行する。

常務理事は、理事長及び副理事長を補佐して業務を処理し、理事長及び副理事長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代行する。（一般社団法人及び一般財団法人に関する法第197条において準用する第91条第2号の業務執行理事）

(3) 監 事（2名）

任期：令和7年6月20日から令和9年の定時評議員会終結の時まで

氏 名		(あいうえお順) 常勤・非常勤の別
下 田 明 英		非常勤
高 林 和 彦		非常勤

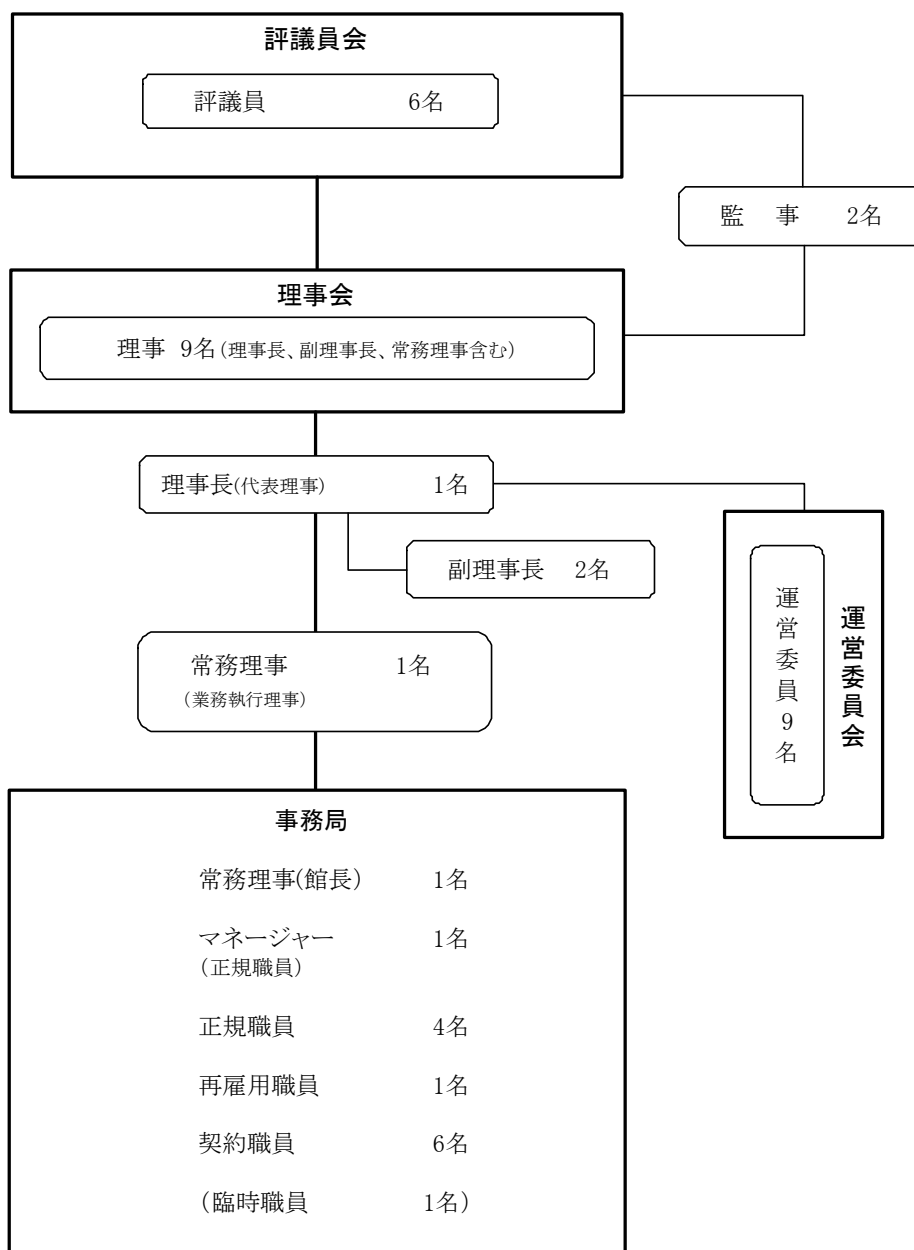
監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

7 職員に関する事項（令和8年3月31日現在）

職 員		契約職員		合 計			平均 年齢	平均 勤続年数
男	女	男	女	男	女	計		
4	2	2	4	6	6	12	48歳	8年

注 非常勤職員を除く

8 事業団組織図



Ⅱ 事業の概況

A 指定管理事業

事業名		趣旨・目的	事業内容	実施時期	改善・変更点等
(1) 青少年等の活動場所の提供事業		青少年会館の管理・運営をとおして、青少年及び青少年団体の自主的かつ創造的な活動の場を提供し、青少年の健全育成に寄与する。	青少年の活動場所提供、会館の施設設備等維持管理、予約システムの運用、施設利用の承認事務、施設利用料収納事務、広報事務、安全管理業務、職員研修、会計経理給与事務、その他管理運営に必要な業務	通年	・複合火災受信機の監視モニターを事務室に設置し、安全管理体制を整備した。 ・宿泊室内のサーキュレーターの交換、畳の表替え、襖の張替えを行い、宿泊利用の環境を整備した。
青少年健全育成事業		趣旨・目的	事業内容	実施時期	改善・変更点等
(2) 青少年指導者・ボランティア養成事業	① 中学生・高校生交流ボランティア体験	中高生のボランティア活動を支援・推進するための環境整備として、活動の機会や場の提供に努める。そのため、中高生にボランティア入門として基礎的な知識習得の研修講座を行うと共に、実践活動を通じた参加者同士の交流を図る。	・ボランティアに関する基礎的知識の習得 ・ボランティア体験の実施 ・参加生徒同士の交流 ・講座修了者に他事業でのボランティア活動の機会を年間を通して計画的に提供	事前研修 7/5(土) ボラ活動の実践 7/6(日)	・ボランティア実践活動(ゆめすくーる mini)では、共催者(青少年会館アドバンス)と安全に満足度の高いプログラムを実施できるよう協議を重ねた。 ・研修をワークショップ形式で実施するなど、参加者同士の交流を図った。
	② 若者ボランティアフェスティバル	既存団体の地域活動やボランティア活動の認知度向上と若者による事業継承を目指し、関係機関や団体指導者と協働で若者のボランティア活動促進をテーマにした交流活動を企画、実施する。	・市町村社会福祉協議会や県内関係機関との幅広い連携 ・各機関と協働関係にある団体等に協力依頼するとともに団体指導者参画による若者ボランティア参加プログラムの企画 ・関係機関、団体、若者ボランティアでつくる交流事業の開催	2/21(土)	・前日に事前研修を行う形式から、開催当日に事前研修を行う形式に変更することで、高校生ボランティアの参加人数が増加した。 ・高校生と団体の交流をテーマに定め、一緒に楽しみながら活動出来るよう工夫した。
	青少年の参画による体験活動推進事業	高校生、大学生、専門学校生等の企画により子どもたちに豊かな体験活動の場を提供する。事業をとおして青少年の自主性、積極性の育成を図るとともにボランティア活動推進の一助とする。また、子どもたちにとってはスタッフや参加者相互との有意義な交流の機会とする。	・部活動、サークル活動に関わるプログラム ・演劇、ダンス、折り紙、アカペラ、体操、創作活動等のプログラム ・外遊び、昔遊び、レクリエーション等テーマとしたプログラム ・高校生、大学生のボランティア体験	(ア) ダブルダッチ 12/13(土) (イ) 語学 8/6(水) (ウ) 演劇 11/29(土)	(ア) ダブルダッチの歴史をクイズ形式で説明したり、チームで3抜け対決をする等、工夫のあるプログラムが盛り込まれた。 (イ) 高校生は小学生の関心を惹くプログラムの企画・立案をすることができた。クイズゲームのプログラムでは、問題文にイラストや画像を交えるなど、多くの児童が楽しめる工夫を凝らしていた。 (ウ) 大学生が考えたプログラム(部員作のオリジナル台本の上演等)で進行して頂いた。皆が積極的に行動して、楽しんでいた。
	③ ダブルダッチ ④ 語学 ⑤ 演劇 【④⑤新規事業】				
	⑥ 体験活動・ボランティア活動支援センター	青少年及び指導者のボランティア活動の情報を収集し、活動を希望する青少年とそれを必要とする学校や青少年団体を結びつけ互いの活動の活性化を図る。	・ボランティア活動に関する情報収集と提供 ・活動希望者と希望者を受け入れる学校・団体との連絡調整 ・会館事業でのボランティア活動の紹介	通年	・県が主催する支援センターの情報交換会に参加し、関係機関と交流した。 ・他の機関(ボランティアサロンぐんま等)との連携を図った。

(3) 青少年の交流・体験活動事業	⑦ 心のバリアフリー事業 (ふれあいゆうあい交流フェスタ)	障がいのある人となない人がともにふれあい、互いに理解し合える場づくりに向けて、障がいのある子どもを支援する団体や青少年団体関係者等と協働で実施する。	- 障がい児の活動を支援する団体等との連絡調整 - 団体指導者、青少年団体会員が参画する対話の場の設置 - プログラム充実に向けた新たな協力団体の受入と参加協力団体の拡大	事前研修・会場準備 10/18(土) 開催 10/19(日)	- 今年度のテーマ曲「にじ」に関連した共同作品コーナーを新たに行った。 - 体験ブースは工作・運動・休息できるものを用意し、子どもの特性に合わせた安全なものを提供した。
	⑧ 親子ふれあい体験教室	ものづくり等、親子共同作業を通して、親子や参加者同士のふれあいを深める。また、レクリエーションによる交流を図る。	- 親子でのものづくり(1日目木工・2日目自然クラフト等) - 交流レクリエーション - 児童の集団宿泊体験 - 高校生ボランティアの受入と参加者との交流	7/19(土) 7/20(日)	1日目はレクリエーション会場を見直し、音楽室で実施した。 1日目は昨年とは異なる自然素材を準備し、リピーターも楽しめるプログラムとした。
	⑨ 高校生写真講座	群馬県高等学校文化連盟写真専門部と連携して企画立案を行い、グループ活動による撮影や制作を通じた参加者の交流を図る。また、撮影に関するモラルや技術を高める機会を提供する。	- 写真撮影を通しての交流 - デジタルカメラの基礎知識、技術の習得 - グループワークによる組写真の制作 - 講座修了者に他事業での撮影ボランティアとして活動する機会を提供する。(撮影画像は館報やSNSにも活用)	6/14(土)	- 講座を1年生向けと2,3年生向けに分けて実施した。 - 学校を混合して班を編制し、撮影活動を通して参加者同士の交流を図った。
	⑩ 交流文化体験	海外や日本の伝統的な遊びやクラフト等を通して、多様な文化に触れる機会を設けるとともに、児童及び留学生、ボランティアによる異年齢交流を行う。	- 海外の特色あるクラフトやダンス、日本の伝統芸能や昔の遊び等の体験 - 高校生ボランティアの受入と参加者との交流	6/28(土) 6/29(日)	人形浄瑠璃では実際に使用する人形を操作する体験、神楽では実物の面を着ける体験ができ、大変貴重であったと思われる。伝統芸能のプログラムは、とても有意義なものとなった。
	⑪ 小学生イラスト講座	マンガ家やイラストレーター等からイラストの描き方を学び、互いの作品を鑑賞する。	- イラストの描き方、道具類の使い方の学習 - イラスト等に関連する職業の紹介 - テーマに沿った製作活動	11/23(日)	作業BGM的に、講師が補助の学生に「小学校の頃はどんな絵を描いていたか」などインタビューして、子どもたちとコミュニケーションを取りながら進めており、終始和やかな雰囲気であった。
	⑫ 企業コラボ体験活動	県内企業の協力を得て小学生を対象とした体験活動を提供するとともに、働くことについて考える機会とする。	- 企業と連携したプログラムの立案 - 企業の特性を生かした体験活動やクラフト等の実施	10/5(日)	株式会社 LIXIL トータルサービスの協力を得て、小学生が企業の製品の歴史などについて学び、スタッフの方と交流しながら理解を深めた。

(4) 青少年団体の育成及び指導事業	青少年団体活動支援事業 ⑬夏休み宿題お助け隊 ⑭夏休み子ども茶道教室 ⑮おやこで茶道教室 ⑯集まれ子ども広場 ⑰スカウトと上州の社会人をつなぐ場所 ⑱ボランティアのつどい 【⑯⑰新規事業】	青少年団体の振興、育成のため、各青少年団体との連携を一層深めるとともに、共催事業や連携事業を企画、実施する。これらの事業をとおり、各青少年団体の更なる活性化、指導力の向上を支援するとともに、新たな団体、サークル等の発掘に努める。	・青少年団体の情報収集 ・青少年団体が主催する事業の支援・共催（年6回程度を見込み、さらなる支援や共催の機会があるときは状況に応じた連携・協力を行う。） ・群青連協加盟団体に担当配置 ・高校生ボランティアの受入と団体会員、参加者との交流 ・既存の青少年団体に加え、学生サークルや青年グループ等まで対象を広げ、活動の助言とともに連携・協働を図る。	(ア) 夏休み宿題お助け隊 8/2(土) 8/3(日) (イ) 夏休み子ども茶道教室 8/24(日) (ロ) おやこで茶道教室 12/7(日) (エ) 集まれ子ども広場 1/25(日) (オ) スカウトと上州の社会人をつなぐ場所 12/7(日) (カ) ボランティアのつどい 3/7(土)	(ア) 今年度から宿題の種類に書道を追加し、参加者のニーズに応えた。 (イ) お茶の点て方の他にも、生菓子や干菓子などの食べ方を学んだ。 (ロ) クリスマスにちなんだ絵柄の茶器を使って、楽しくお茶をいただけるよう工夫した。 (エ) 体を動かして新しい友達を作ることをテーマとし、盛んに交流が行われた。 (オ) 高校生・大学生等を対象に、スカウト活動やボランティア活動で培ったスキルや体験を企業・社会でどのように生かせるかを学ぶ機会となった。 (カ) プログラムのテーマを手作りゲームセンターと定め、児童を6班に編制した。班付きのスタッフは配置せず、子どもたちだけでブースをまわった。
	⑲ 地域団体応援事業	青少年育成団体に活動拠点として青少年会館の利用を推奨するとともに、活動を推進するため、支援及びプログラム立案を助言する。また、既存の青少年団体との協働をコーディネートし、相互の連携関係を築く。	・県内にある青少年育成団体や指導者団体の情報収集及び関係者との対話によるニーズや活動課題の把握 ・他団体との連携の支援 ・青少年会館事業の理解促進と協力関係の構築 ・青少年会館を活用した活動場の提供やプログラムの提案 ・群青連協との連携、団体情報の共有	(ア) 性教育フェスタ 9/23(火) (イ) スポフェス 2025 11/24(月)	(ア) チラシ配布枚数の増量やラジオ放送を行い、広報活動を広範囲に展開した。 (イ) スポーツを通じた交流や次の一歩を踏み出す交流集会とすることを目的として実施し、多様な立場の若者が楽しんで活動できた。
(5) 情報収集・情報提供システム事業	⑳ ぐんま青少年ねっと	ホームページ・ブログ・SNSにより青少年会館及び、青少年健全育成事業の情報を発信し、周知を図る。また、学習コーナーの利用者がインターネットを利用できる機器を貸し出し、青少年の自己学習や情報収集を支援する。	・会館運営、事業開催情報の提供 ・ホームページの更新とSNSの有効な運用 ・学習情報コーナーの設置（無料Wi-Fiエリア内） ・事業に関するデータベースの管理と運用	通年	・2階多目的学習室前に学習・ワークスペースを増設した。より広く活用してもらえるように、周知のためのチラシの作成や、SNSによる利用時間の案内等を行い、更なる利用促進に努めた。
	㉑ 青少年活動事例調査	青少年の課題やニーズを把握するとともに、指導者の情報や他施設の取り組み事例を収集する。	・青少年の地域活動やボランティア活動の視察 ・他施設の体験活動及び研修の情報収集や参加	通年	・各県に設置されている青年会館との情報交換、施設の視察など、幅広い情報を収集できた。

B 自主事業

事業名	趣旨・目的	事業内容	実施時期	改善・変更点等
(1) 青少年活動支援事業 ① 青少年会館友の会事業	会館を拠点とする「青少年会館友の会」に、青少年健全育成事業の指導者として施設ボランティア・事業ボランティアの活動の場を提供するとともに、共催により友の会が企画する児童の体験活動の実施を支援する。	・ゆめすくーる（小学生対象の体験教室） ・会館事業へのボランティア参加	通年（活動支援） ゆめすくーる 10/26（日） 11/16（日） 12/14（日）	・指導者養成ユニットは、親子を対象とした事業を2つ実施することができた。 ・アドバンスユニットは、中高生ボランティア体験事業の講師としても、指導・イベントの運営をしていただいた。
(2) 地域連携協力事業 ② 地域連携協力事業	市町村や県内団体及び学校等の事業と連携し、ニーズに対応した体験活動や研修を受け入れたり、県内で開催されるイベント等に参加したりして、地域との連携を図る。	・学校等からの施設見学や職場体験への協力 ・社会教育施設及び青少年団体等が主催するイベント等へのブース出展及び運営協力 ・県内ボランティア団体が主催する教育プログラムの共催協力	(ア) 体験の風をおこそう運動協力 実行委員会 6/6（金） 2/26（木） あかぎフェスタ出展 10/26（日） みんなのクラフトひろば出展 1/24（土） 子ども体験ワークショップ出展 2/8（日） (イ) 荒牧小学校対応（町たんけん） 5/27（火） (ロ) 社会教育実習等 群馬大学 12/14（日） (エ) 高校生短期インターンシップ受け入れ 高崎女子高校 10/8（水）～10/10（金） 前橋商業高校 10/21（火）～10/24（金） (オ) ライオンズクエスト薬物乱用防止委員会 事前打合せ 8/1（金） 11/7（金） ライオンズクエストワークショップ 12/26（金） (カ) ジンズパークイベント 青少年会館のみんなと遊ぼう 2025 9/6（土）	(ア) ひのきの箸づくりで体験ブースを出展した。また、他の施設や団体の体験プログラムを見る機会になった。 (イ) 来館した児童に館報やチラシで夏季実施の事業を周知した。 (ロ) 事業や施設案内を通じて、学生から館内の印象や参加したい事業について感想を聞き取りした。 (エ) 会館内での作業のほか、プログラムの理解のためクラフトを体験させた。 (オ) チラシの配布地域を拡大し、参加がより多くなるよう努めた。 (カ) 1ヶ月程度の短い準備時間の中で、協力団体である群馬県青少年団体連絡協議会と調整を行い、各ブース出展をしていただき、事業を実施することができた。
(3) 広報事業 ③ 新年交歓会	青少年教育行政関係者や青少年団体関係者等が一堂に会し、青少年健全育成について情報交換を行うとともに、群馬県青少年会館及び公益財団法人群馬県青少年育成事業団の諸事業を広報し、その理解促進を図る。	・情報交換会 ・事業パネル展示、動画映写 ・リーフレットや館報の配布 ・青少年団体の協力によるおもてなしプログラム	1/17（土）	・ステージ出演団体は、出席者が明るく前向きな気持ちになれるよう、新春にふさわしいダンスパフォーマンスを披露した。 ・コロナ禍後、はじめて会食を伴う会とし、リラックスした様子で和気あいあいと歓談・交流ができた。
(4) 補助事業 ④ 団体補助	団体の活性化を図るために、会館に事務局を置く5団体へ補助金を交付する。	・事務局運営用補助金の交付（4万円×5団体）	—	—

C 受託事業

事業名		趣 旨 ・ 目 的	事 業 内 容	実施時期	改善・変更点等
(1) 青少年自立・再学習支援事業	① G-SKY Plan	悩みを抱える青少年及び保護者に対して相談を行い、必要に応じて体験活動を実施するなど、生活を充実させ、不登校やひきこもりからの脱却や社会的自立を支援する。また、高校中退者の再学習のための相談・支援体制の充実を図り、各種情報の提供を行う。	・コーディネーターの配置 ・青少年とその保護者・学校からの相談対応 ・体験活動受入事業所等の情報収集、連絡調整 ・体験活動のコーディネート ・再学習支援のための各種情報の収集、提供	通年（相談・面談・体験） 合同会議（4回） 4/11（金）、7/9（水） 12/5（金）、3/4（水） 進路相談会（2回） 8/23（土）、10/25（土）	・利用を増やすため太田市・渋川市・沼田市・利根地区の中学校校長会で、事業説明を行った。 ・進路相談会では、8月の参加が難しい学校があったので、スクーリング等の影響が少ない土曜日に計画したところ、全ての学校に参加していただくことができた。 ・ステップアップ支援促進事業との連携を深めるため、自立・再学習支援会議を月1回開催した。
	② 地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業	高校中退者等を対象とした学び直しのための支援を行う。高校卒業程度認定試験等に関わる相談及び情報提供と希望者に応じて会館での学習支援を行う。	・学習相談 学びに応じた教科書や副教材の紹介、高卒認定試験の紹介、教育機関や修学のための経済的支援の紹介等 ・学習支援 青少年会館を活用し、高卒認定試験等の受験を目指す学習者に対して個別に学習支援を行い、学習者の自立を促す。	学習相談・支援等 4～3月 学習会 60回	・G-SKYPlanとの連携を深めるため、自立・再学習支援会議を月1回開催し、情報共有を密に図った。 ・学習相談者の受験科目に対応し、ワークブック、過去問題集、教科書の他に頻出問題集を追加し、学習会参加者に問題集の選択肢を増やした。このことが学習会参加者からは好評を得た。

A 指定管理事業

(1) 青少年等の活動場所の提供事業

群馬県青少年会館の設置及び管理に関する条例（以下「設管条例」という。）の設置目的・業務に添った運営を行うべく、施設の利用については、青少年の育成に関する諸事業並びに青少年及び青少年関係団体、学校等の自ら企画した事業等の活動場所の提供事業と位置づけ、当事業団の公益目的事業として運営を行った。

- ・設置目的

青少年団体活動の振興及び青少年の健全な育成を図るため設置

（群馬県青少年会館の設置及び管理に関する条例（以下「設管条例」という。）第2条）

- ・業務

青少年の健全な育成を推進するための業務、青少年団体の育成

（設管条例第2条の2）

- ・施設概要

敷地面積：8,862㎡

建築延べ面積：3,676㎡（本館2,746㎡ 新館930㎡）

- ・指定管理期間

令和7年4月1日～令和10年3月31日（3年間）

- ・管理運営体制

- a 組織体制

事務局の責任者は常務理事（館長）とし、マネージャー制を継続した。

マネージャー1名、正規職員4名、再雇用職員1名、契約職員6名、臨時職員1名

- b 職員の資質、知識向上

職員対象の全体会議、利用者対応に関する研修、安全管理訓練、他施設との合同研修の参加等、内部、外部の研修・訓練等により職員の資質向上に努めた。

① サービス向上の取り組み

ア 接遇研修

講師：太田 大森（令和7年5月19日（月）時点 公益財団法人群馬県青少年育成事業団 理事長）

テーマ：群馬県青少年育成事業団の運営について

概要：利用者サービス向上のため、事業団職員に会館の歴史や職員の心構えについて

イ 受付対応と業務マニュアル等の見直し

昼休みの時間帯にも会議室および宿泊室の予約を受付可能とし、利便性を高めた。

職員が業務を適正に処理できるよう、宿直、B勤務、C勤務の各マニュアルを適宜修正した。

ウ 平等、公平な利用者サービスの提供等

施設予約の受付期間と受付時間を遵守し、平等、公平な受付業務を引き続き実施した。

接遇研修の学びを生かし、おもてなしの心、サービス精神を持って対応を心がけた。

エ 職員間の情報の共有化

毎月始めに理事長、常務理事、マネージャーによる月例運営会議で理事長からの指示、業務の進捗等を確認した。また、全職員が業務に関する情報を共有するため、月1回の全体会議を行った。さらに、毎日の業務開始時に朝の会を行い、当日の利用団体や事業に関する情報を共有した。

交代勤務の中で各職員が毎日の状況を把握するために、事務室内に業務日誌を常備し、行事・修繕・点検・苦情と要望を記録した。

オ アンケートや聞き取り調査等の実施とフィードバック

事業参加者のアンケート様式を見直し、ねらいの達成度、交流の状況、情報の入手先等、選択式にして集計した。また、事業の感想は記述のみに頼らず、担当職員等が参加者から直接聞き取りを行うなど工夫した。施設利用者には、毎回、代表者へアンケート記入を依頼した。また、館内に投稿箱とアンケート用紙を常備し、意見を受け付けた。

アンケート等での苦情、要望等で改善可能なものは速やかに対応・改善し、フィードバックは受付やWeb等で行った。

※主な対応内容

要望：宿泊室で電気を消したあと布団に入るまでが真っ暗で危ない。

対応：常夜灯を明暗センサー式の自動点灯ライトに変更した。

要望：浴室に行くまでの順路をもう少し分かりやすくして欲しい。

対応：オリエンテーションで浴室の場所を案内し補足した。

カ 外部研修の参加や情報収集の実施

青少年健全育成事業の企画力・技能向上に関する外部研修等に出席し、スキルアップを図るとともに他施設の状況や社会教育の最新情報の収集に努めた。

「刈払機取扱作業安全衛生教育」 コマツ教習所 4名

「魅力ある職場づくり実践セミナー」 群馬県庁・群馬県立産業技術センター 1名

「雇用保険電子申請説明・相談会」 ハローワーク前橋 1名

「群馬県社会教育研究大会」 群馬県生涯学習センター 1名

「群馬県青少年施設連絡協議会研修会」 北毛青少年自然の家 4名

「公益社団・財団法人向け動画セミナー」 アクエル前橋 2名

「社会保険・厚生年金制度説明会」 群馬県農協ビル 1名

「社会教育主事講習」 群馬県生涯学習センター 1名

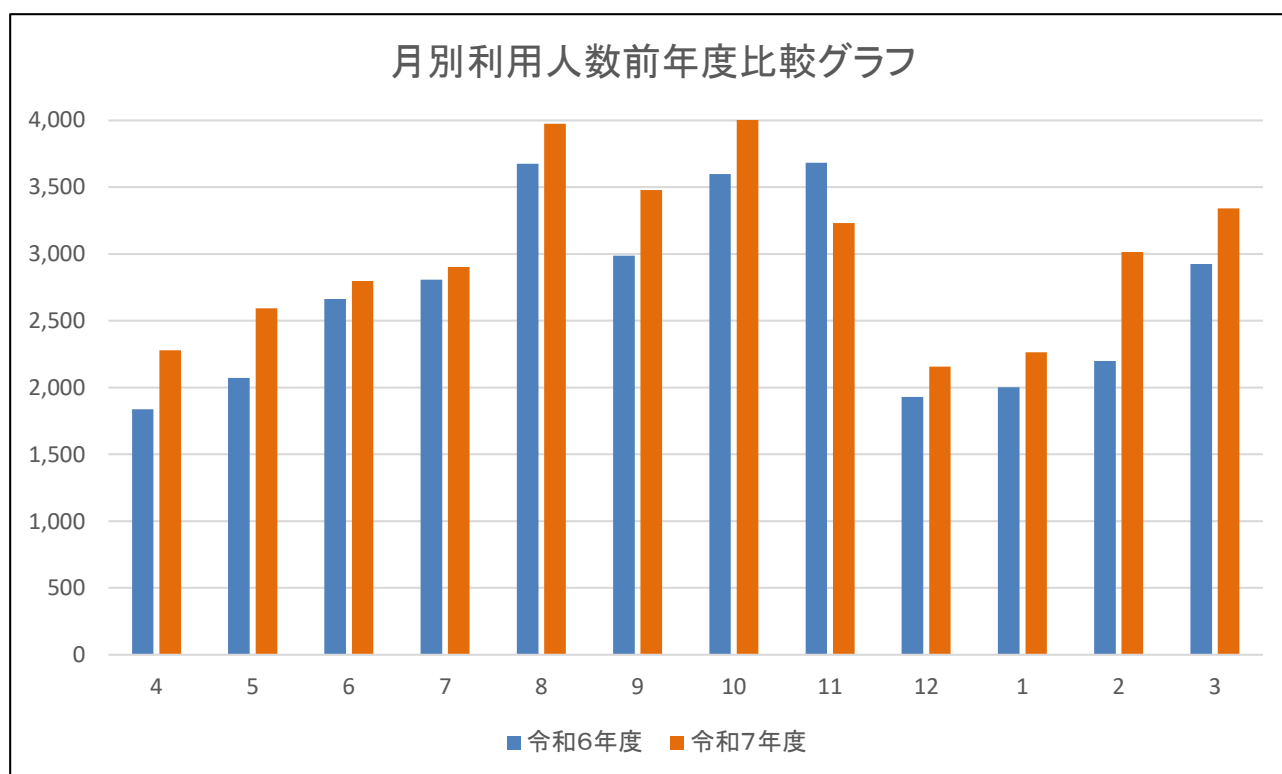
「安全衛生推進養成講習」 勢多会館 1名

② 年間利用集計

ア 利用人数

令和7年度月別のべ利用人数実績（前年度比較）																	
月	令和6年度（A）						令和7年度（B）						比 較（B）－（A）				
	日帰り		宿泊利用		合 計		日帰り		宿泊利用		合 計		利用人数		対前年比		
	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	
4	70	1,509	8	329	78	1,838	70	1,684	11	594	81	2,278	123.9%	0	175	3	440
5	70	1,549	9	523	79	2,072	78	1,952	10	640	88	2,592	125.1%	8	403	1	117
6	88	2,290	7	372	95	2,662	86	2,342	9	456	95	2,798	105.1%	△ 2	52	2	84
7	80	1,822	13	986	93	2,808	78	2,159	17	742	95	2,901	103.3%	△ 2	337	4	△ 244
8	78	1,936	28	1,738	106	3,674	70	2,203	32	1,772	102	3,975	108.2%	△ 8	267	4	34
9	82	2,530	13	456	95	2,986	84	3,069	8	408	92	3,477	116.4%	2	539	△ 5	△ 48
10	79	3,254	10	344	89	3,598	90	3,394	12	669	102	4,063	112.9%	11	140	2	325
11	85	3,219	10	462	95	3,681	82	2,940	13	292	95	3,232	87.8%	△ 3	△ 279	3	△ 170
12	63	1,518	13	412	76	1,930	76	1,690	13	466	89	2,156	111.7%	13	172	0	54
1	64	1,809	6	194	70	2,003	69	2,069	4	194	73	2,263	113.0%	5	260	△ 2	0
2	81	1,866	7	332	88	2,198	82	2,570	12	444	94	3,014	137.1%	1	704	5	112
3	70	1,928	16	996	86	2,924	79	2,545	14	796	93	3,341	114.3%	9	617	△ 2	△ 200
計	910	25,230	140	7,144	1,050	32,374	944	28,617	155	7,473	1,099	36,090	111.5%	34	3,387	15	329

令和7年度の施設利用者数は、延べ36,090人（対前年度比111.5%）であった。



■前期

前年度と比較して、日帰り利用・宿泊利用のいずれかが減少した月もあったが、合計ではいずれの月も利用人数は増加している。特に年度始めと夏休み期間は、日帰り利用の人数が前年比で大きく増加した。

■後期

昨年の2、3月は利用人数が伸びなかった事に対し、今年は2、3月に大口の日帰り利用があった事が要因となり、前年比の利用人数が大きく増加した。11月のみ合計の利用人数が減少しているが、団体数自体には増減が無い。人数減の要因にはインフルエンザ流行の影響もあると思われる。

イ 利用料収入の実績

平成26年度より利用料金制が導入された。令和7年度は8,068,255円の利用料収入があった。

令和7年度月別利用料前年度比較 単位：円

月	利用料収入		
	令和6年度 (A)	令和7年度 (B)	(B) - (A)
4	405,580	675,740	270,160
5	555,880	699,570	143,690
6	622,140	503,220	△118,920
7	999,180	809,040	△190,140
8	1,379,740	1,361,020	△18,720
9	625,270	637,380	12,110
10	570,000	605,170	35,170
11	782,740	568,990	△213,750
12	491,270	409,290	△81,980
1	337,600	369,225	31,625
2	608,520	568,950	△39,570
3	1,050,145	860,660	△189,485
合計	8,428,065	8,068,255	△359,810

ウ 施設稼働率

令和7年度 青少年会館 施設稼働率

	今年度		前年度		対前年度比	
	会議室等	宿泊室	会議室等	宿泊室	会議室等	宿泊室
4月	27.0%	23.6%	26.9%	20.6%	0.1%	3.0%
5月	26.4%	19.5%	22.9%	13.5%	3.5%	6.0%
6月	31.8%	13.1%	32.6%	10.5%	-0.8%	2.6%
7月	34.2%	24.0%	39.1%	29.7%	-4.9%	-5.7%
8月	47.1%	60.3%	46.9%	64.9%	0.2%	-4.6%
9月	31.3%	17.8%	31.1%	16.7%	0.2%	1.1%
10月	50.1%	30.6%	37.0%	21.2%	13.1%	9.4%
11月	39.1%	15.4%	34.4%	17.2%	4.7%	-1.8%
12月	36.9%	18.6%	26.7%	16.9%	10.2%	1.7%
1月	29.2%	7.5%	23.8%	10.3%	5.4%	-2.8%
2月	34.8%	16.3%	35.3%	11.7%	-0.5%	4.6%
3月	35.1%	27.9%	35.3%	39.5%	-0.2%	-11.6%
平均	35.3%	22.9%	32.7%	22.7%	2.6%	0.2%

エ 広報、利用促進活動

- ・会議室および宿泊室の利用促進のために、新たに広報チラシを作成した。
チラシはwebページへの掲載の他、会館の内外問わず様々な機会に配布した。
- ・館報、リーフレットを県内全域に配布した。
- ・研修コンサルタント会社4社に訪問し、チラシ・館報・リーフレットを配付した。
- ・前橋近郊の従業員200人以下の企業30社に、チラシ・館報・リーフレットを郵送した。
- ・レストラン利用促進のために、毎月更新の献立表と、別メニューの案内を掲載した。
- ・ブログ・Twitter(X)・Instagramにて、主催事業・施設利用・館内の様子などについて情報発信した。
- ・更新回数は、Webページ61回、ブログ33回、Twitter(X)155回、Instagram157回行った。
- ・マスコミに事業当日の取材を依頼した。

③ 環境整備及び修繕の取組

ア 環境整備

- ・職員が一日2回館内外を巡視する等、設備の確認や利用者の安全を第一に常に緊張感をもって管理を徹底した。
- ・居心地の良い雰囲気づくりに配慮し、七夕や節句に合わせて季節の飾りや花壇で育てた草花等を館内に飾った。また、栽培した苗の一部を利用者が自由に持ち帰れるようロビーに配置した。
- ・利用者が宿泊室から退出する際の清掃が容易になるよう、コードレス掃除機を設置した。
- ・指定管理仕様書の管理基準により関係法令を遵守し、施設設備の日常点検、保守管理等を実施した。
- ・年1回の備品総点検を行い、適正な管理に努めた。
- ・植栽管理は、年2回の業者委託の他、群馬県青少年団体連絡協議会や環境美化団体みどりの会と連携した清掃作業及び職員による日常的な除草作業、インターロッキングの草取作業を実施し、環境維持に努めた。

イ 設備修繕及び維持改善等

- ・経費節減のため、軽微な修繕はできるだけ職員が行った。また、既存設備のメンテナンスや修繕工具取扱いの注意事項についてベテラン職員が若手の職員へ指導した。
- ・修繕及び設備改修・メンテナンス等、次のとおり実施した。

【業者対応】

本館1階東通用ロドアクローザー交換、消防設備修繕(誘導灯)、本館3階浴室鏡交換、宿泊室修繕(和室の畳表替え、襖張り替え、照明器具更新)、役員応接室照明器具更新、本館3階浴室コンセント増設、本館1,3階女子トイレ詰まり除去、本館1階団体側男子トイレバルブ修理、新館3階男子手洗い場排水トラップ取替、複合火災受信機監視モニター設置、本館3階浴室タイル洗浄、新館エレベーター修繕(マイコンバックアップBT交換、制御盤内ブレーキリレー交換)

【職員対応】

玄関タイル補修、駐車場Bエリアプラチェーン交換、1階出入口ドアチャイム交換、本館屋上出入口ドアクローザー調整、洗濯乾燥機用排水ホースセット取付、新館1階受付前時計再取り付け、本館1階多目的トイレドア調整、本館2階女子トイレドアノブ修繕、小会議室ホワイトボード修理、プレイホール鏡カバー戸車修繕、プレイホール机椅子搬入扉修繕、宿泊室ドアノブおよび鍵修繕、宿泊室害虫駆除(スプレー)、宿泊室サーキュレーター交換、宿泊室カーテンレール修繕、団体側出入口タイル補修、団体側出入口ソーラーライト設置



館内外の草花



ポット苗を利用者に配布



季節に合わせた飾り付け



洗濯乾燥機用排水ホースセット取付



新館1階受付前時計再取り付け



団体側出入口ソーラーライト設置

④ 緊急時の体制・対応、防災、感染症対策

- ・ 1階出入口の非接触式体温計、館内各所の手指消毒用アルコール設置を継続した。
- ・ 消防署職員を講師に招きAEDを使用しての救急救命講習、警察署生活安全課職員を講師に招いての不審者対応訓練(防犯訓練)をそれぞれ1回実施した。
- ・ 入居青少年団体事務局とともに自衛消防隊を組織し、消防訓練を年2回実施した。その内の1回は消防署職員の派遣を依頼し、防災に関する専門的な知識を学んだ。



救命講習



消防訓練



防犯訓練

⑤ 青少年団体や地域住民等との連携

- ・寿楽園等の近隣施設や近隣学校と連携・交流を図った。
- ・群馬県青少年団体連絡協議会加盟団体の総会や会議に参加した。
- ・ライオンズクラブ国際協会333-D地区と連携して共催事業を実施した。
- ・前橋市の管理事務所に協力を得て、会館駐車場満車時にばら園駐車場を借用した。
- ・青少年会館友の会や群馬県青少年団体連絡協議会の協力で1階ロビーの飾り付けを行った。
- ・群馬県青少年団体連絡協議会、環境美化団体みどりの会と連携して敷地内の除草や清掃を行った。



群馬県青少年団体連絡協議会による会館清掃



環境美化団体みどりの会による除草作業



荒牧小学校の施設見学「まち探検」に協力

⑥ その他

ア 情報公開及び個人情報保護への取り組み

情報公開規程に基づいた情報公開及び個人情報保護規程、特定個人情報保護規程に基づいた個人情報保護を行った。

イ 法令遵守

諸規程整備等を実施し、法令に基づいた運営を実施した。

ウ 環境保全

- ・節電、省エネの取組を通年で実施し、利用者にも節電の協力を呼びかけた。
- ・冬季に新館の防火戸を閉め、暖房効率を上げる工夫をした。

エ 筆談ボードの導入

- ・聴覚障害のある利用者と円滑にコミュニケーションをとるための備えとして、窓口に筆談ボードを導入した。



節電の協力呼びかけ



暖房効率を上げるため防火戸を利用



筆談ボードの導入

(2) 青少年指導者・ボランティア養成事業

「中学生・高校生交流ボランティア体験」

1 事業目標

県内の中学生・高校生に対し、ボランティア活動に対する知識を伝授するとともに、活動の実践を通して交流を深める機会を提供する。また、ボランティアに対する意識啓発を行うことにより、継続した活動を推進する。

2 事業概要

(1) 期日：令和7年7月5日（土）・6日（日）

(2) 参加対象及び募集人数：県内在住・在学の中学生・高校生 15名程度

(3) 参加状況

ア 【中高生ボランティア】参加者数（実人数） 15名、申込人数 17名（キャンセル2名）
【ゆめすくーる mini】参加者数（実人数） 20名、申込人数 24名（キャンセル4名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		16	4	12	3			35

※「ゆめすくーる mini」（小学生が参加）は、ボランティア実践として当事業内で実施

イ 講師 17名

ウ 延べ参加人数 6名＋15名＝21名（中高生）

3 事業実施のポイント

- ① 2日間開催とし、1日目の研修で学んだことを2日目のボランティア実践活動（ゆめすくーる mini）で生かせるよう工夫した。
- ② ボランティア実践活動（ゆめすくーる mini）では、共催者（青少年会館アドバンス）と安全に満足度の高いプログラムを実施できるよう協議を重ねた。
- ③ 研修ではワークショップ形式で実施するなど、参加者同士の交流を図った。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
7月 5日 (土)		・開講式・諸連絡 ・コミュニケーションゲーム ・小学生への接し方伝え方 ・ボランティア活動の始め方&広げ方	
7月 6日 (日)	・日程説明 ・活動の実践に向けて (クラフト・レクリエーション指導のポイント)	・ボランティア活動の実践 (「ゆめすくーる mini」にて) ・片付け ・ふりかえり ・閉講式	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

【講義の理解度】

とてもよくわかった5、わかった0、あまりわからなかった1、全くわからなかった0

【ボランティア実践活動での満足度】

とてもよくできた7、よくできた4、あまりできなかった3、全くできなかった0

【参加者・小学生との交流】

とてもよくできた7、よくできた7、あまりできなかった0、全くできなかった0

【感想】

- ・ボランティアや子供に対しての接し方などが理解でき、とても役にたった。
- ・講義の中で、ちょっとした実践へのゲームを交えてお話をしてもらうことで、とてもわかりやすく、楽しんで聴くことができた。
- ・あまり小さい子とのふれあいがなかったので、今回の体験はとても貴重だと思った。
- ・小学生の立場にたって、伝え方や接し方を考えながら自分なりに提案したり等、よくサポートができた。
- ・どのように小学生に話しかけたらよいかわからなかったが、子どもたちが楽しそうに活動していて段々と自分まで楽しむことができ、指導することができた。
- ・最初は少し緊張して自分から積極的に話しかけられなかったけど、話せてよかった。

(2) 成果

- ① 1日目の研修では、ゲームやクイズを合間に交えて、参加者が楽しめる工夫をしていた。
- ② 2日目の準備活動では、レクリエーションやうちわづくりのリハーサルを行い、参加者が安心してボランティア実践活動（ゆめすくーる mini）に臨めるよう指導することができた。
- ③ ボランティア実践活動（ゆめすくーる mini）では、多くの参加者が小学生や指導者、参加者同士で交流することができた。

(3) 課題

近年、県中学校総合体育大会等の時期が早まったこともあり募集当初は定員割れだった。近隣の中学校へ応募を依頼したところ、片日（6日）の参加であれば可能と回答をいただいた。次年度以降は周知範囲を拡大すると共に、開催時期の見直しやプログラムを短縮するなど、参加者のニーズに合ったプログラムの提供を心がけたい。

6 事業の様子



コミュニケーションゲーム



小学生への接し方・伝え方



ボランティア活動の始め方・
広げ方



活動の実践に向けて



ボランティア活動の実践①



ボランティア活動の実践②

担当 町田 友佳

「若者ボランティアフェスティバル事業」 (わくわく体験フェスタ)

1 事業目標

既存団体の地域活動やボランティア活動の認知度向上と若者との交流を目指し、関係機関や団体指導者と協働で若者ボランティア活動促進をテーマにした交流活動を企画、実施する。
高校生と団体の交流を目的とし、子ども達への体験活動の提供を交流の手段としてフェスティバルを開催する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和8年2月21日(土)
 (2) 会場：群馬県青少年会館
 (3) 参加対象及び募集人数：来場者 150 名、高校生ボランティア 30 名程度
 (4) 参加状況

ア 参加者合計 141 名

内 訳	未就学児	小学生 1～3 年	小学生 4～6 年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数	28	53	13				47	141

イ スタッフ ・スタッフ（協力団体、参加団体、群青連協等）77 名
 ・高校生ボランティア 51 名

3 事業実施のポイント

- ① 協力団体、参加団体（ボランティア団体）と協働で事業実施を行う。
 ② 高校生ボランティアに参加・協力してもらい、協力・参加団体と交流し、団体の理解を図る。
 ③ 子ども達が参加するフェスティバルの準備等を行い、来館者への体験活動の提供を行う。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
2 月 21 日 (土)	・会場準備、打合せ ・高校生ボランティアへの活動における注意点等の指導、会場準備 ・ブース展開開始	・ブース展開 ・全体での閉会行事	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度（事業参加者の感想等について）

- 1 高校生ボランティア
 ・参加団体とのコミュニケーション よくできた 67%、できた 31%
 ・参加団体の活動理解 よくできた 61%、できた 39%
 参加団体との交流、理解については準備活動等を一緒に行いながら、実施できたと考えられる。
 「様々な人と協力しながら楽しんで活動できた」、「参加団体さんの、企画を参加者の子どもに楽しんでもらえるようにルールの説明やセッティング等がしっかりできた」等の意見があった。

2 参加団体

ア 高校生ボランティアとの交流

よくできた 52%、できた 29%と多くの団体が高校生ボランティアと一緒に活動できたと回答している。

「高校生ボランティアの子どもたちへの接し方が心配点だったが全く問題がなかった。子どもたちも高校生が親しみやすい存在のように見えた」、「若い世代の子たちがブースにしてくれたことで来場者の子どもたちが緊張せずに遊んでいたと思う。また、人出が必要な場面も多かったので高校生がいてくれてとても助かった」等の意見があった。

イ その他の感想など

「多くの子どもたちが様々な体験ができるかだと思うので是非来年も開催してほしいと思う。」という意見があった。

来場者が少なかったという意見があった。また、前日での研修、準備があった方がよいという意見もあった。

(2) 成果

- ・高校生ボランティアと参加団体の方の交流はよくできたと感じる。高校生ボランティアについても30名程度の応募者のところ、51名の参加があり、多くの高校生ボランティアが交流できたと感じる。参加団体としても活動を楽しみながら一緒に実施できていた。

(3) 課題

- ・広報については、フェスティバル内容を伝えるという課題について、最終的に意見をまとめきれず、昨年同様、実施内容がわかりにくいチラシとなった。
- ・運営について、多くの団体と一緒に実施するため、役割分担の明確化が必要になる。途中から関わる団体もあり、事業の内容の変化に合わせて、事務局の体制の調整などが必要となる。また、決定することに対し、責任者が曖昧な部分があった。

6 事業の様子



会場準備



高校生ボランティアへの指導



ゲームブース 足での的当てゲーム



クラフトブース
お花づくり



ダンス体験



団体紹介

担当 井口 堅太郎

「青少年の参画による体験活動推進事業」 (大学生とはじめてのダブルダッチ体験会)

1 事業目標

群馬大学ダブルダッチサークル Rally の協力を得て、ダブルダッチの歴史や楽しさなどについて、大学生や他の参加者と交流しながらより深く理解し、他者とのコミュニケーション方法等を学ぶ。また、大学生の企画・アイデアを表現する機会とする。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年12月13日(土)
(2) 参加対象及び募集人数：小学4～6年生 30名程度
(3) 参加状況

ア 参加者合計 12名、 申込人数 16名(キャンセル4名)

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数			12					12

イ スタッフ・講師(群馬大学ダブルダッチサークル Rally) 7名

3 事業実施のポイント

- ① 昨年度に続いての開催であり、群馬大学ダブルダッチサークル Rally の学生の企画やアイデアをプログラムの中で生かし、小学生が気軽に体験できるように内容や時間を工夫して実施した。
- ② ダブルダッチの歴史をクイズ形式で学び、基本の練習と3抜け対決や技への挑戦、最後にダブルダッチサークル Rally によるパフォーマンスを見るという内容で、短時間でもダブルダッチに親しめるようにプログラム内容を工夫した。
- ③ 会場となるプレイホールの広さを有効に活用すると共に、児童一人一人の支援が十分にできるように参加児童を2班編制にした。

4 日程

日時	午 前 10:00～12:00	午 後	夜
12月 13日 (土)	・開会式、事務連絡 ・ダブルダッチ体験会 (ダブルダッチの歴史・基本の練習・3抜け対決・技への挑戦・大学生のパフォーマンス) ・アンケート記入 ・ふりかえり ・閉会式	・大学生アンケート記入 ふりかえり	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

【ダブルダッチの歴史や楽しさを学ぶことができたか】
 ・よくできた8人 ・できた2人 ・あまりできなかった0人 ・できなかった0人 ・無回答2人
 【大学生や他の参加者と仲良くすることができたか】
 ・よくできた8人 ・できた2人 ・あまりできなかった1人 ・できなかった0人 ・無回答1人
 (参加者 感想)

- ・最初はできなかったけど、お兄さん、お姉さんたちのアドバイスでできるようになって楽しかった。
- ・とても楽しかった。少しやったことはあったけれど、ちがう技もできてよかった。またやってみたい。
- ・いろいろな技ができるようになってうれしかったです。最後くらいに自分達でやったパフォーマンスも上手にできるようになったので、もう1回やりたいです。

(大学生 感想)

- ・子ども達に喜んでもらえたので良かったと思います。初めてダブルダッチを体験する子供達にも良い順序で跳び方をレクチャーできたので良かったと思います。
- ・ダブルダッチをただ体験するだけでなく、知識を深めたり、対決をしてチームの仲を深めたりすることで、学校や学年の違う子供達同士で、ダブルダッチを通じた交流ができたのが良かった。
- ・子ども達と一緒に楽しくダブルダッチができて良かったし、ダブルダッチのことを少しでも広められたかなと思う。また、みんな上手で意欲的に取り組んでくれて、とても嬉しかった。また、ぜひ「ダブルダッチ体験会」に参加できたら良いなと思う。
- ・今回は2度目の参加でしたので前回から少し内容を変え、楽しんでもくれるよう工夫してみました。これがうまくはまったように思い達成感がありました。

(2) 成果

- ・昨年度を踏まえ、大学生は内容を良く考えて指導を行っていた。ダブルダッチの歴史のクイズ形式での説明や、チームで3抜け対決をする等、工夫のあるプログラムを盛り込んでいた。
- ・小学生を2班に分けてプログラムを進行したが、指導する大学生の人数とちょうど良いバランスで、コミュニケーションもうまく取れていた。
- ・参加者に変化好評の結果となり、大学生も達成感や満足感があつたようである。大学生とも協議し、次年度は10月31日(土)に事業実施で計画をしている。

(3) 課題

- ・募集30名に対し当日の参加者は12名で、昨年よりも少数であった。参加者募集の早い段階から、大学生にもSNSでの広報協力をしてもらおう等、参加人数確保のための対策は、考えるようにしたい。昨年に続き今年の体験会も参加した児童がいたので、リピーターにも期待したい。

6 事業の様子



ダブルダッチの説明



基本の練習 1



基本の練習 2



3抜け対決



技への挑戦



大学生のパフォーマンス

担当 櫻井 小百合

「青少年の参画による体験活動推進事業」 (高校生ティーチャーと英語にチャレンジ)

1 事業目標

部活動に励む高校生に対し、小学生の体験活動に関わる機会を提供する。事業の参画を通じてボランティア活動の達成感を味わうとともに、年少者を思いやる心を育む。また、小学生にとって体験活動への参加を通して、英語を始めとした外国語に対する関心を高めるとともに、有意義な交流の機会とする。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年8月6日（水）
 (2) 参加対象及び募集人数：県内在住・在学の小学生 40名程度
 (3) 参加状況

ア 参加合計 33名、 申込人数 35名（キャンセル2名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数			33					33

イ スタッフ・講師 13名（群馬県立高崎女子高等学校 語学部）

3 事業実施のポイント

- ① 高校生がプログラムの企画から当日の運営まで携わることにより、ボランティア精神を育むと同時に、異年齢交流を図った。
 ② プログラム内容を二本立てとし、より多くの小学生が楽しめるよう工夫した。
 ③ 例年20名程度の定員で実施していたが、定員を40名程度へ増やして実施した。
 ④ 高校生が円滑に進行できるよう、関係者と定期的に打ち合わせを重ねた。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
8月 6日 (水)	開会式・諸連絡 アイスブレイク 30問クイズ 四コマまんがづくり 発表 ふりかえり 閉会式		

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

【英語の学習・体験活動へ満足したか】
 とてもそう思う31、少しそう思う2、あまりそう思わない0、全くそう思わない0
 【参加者・高校生と交流できたか】
 とてもそう思う31、少しそう思う2、あまりそう思わない0、全くそう思わない0
 【高校生の説明はわかりやすかったか】
 とてもそう思う32、少しそう思う1、あまりそう思わない0、全くそう思わない0

【感想】

- ・とても楽しかったです。発音や言い方が高女の方は上手で私も勉強になりました。
- ・たくさん高校生と遊んだりできて嬉しかった。わからないところは教えてもらった。
- ・高校生とこのような企画・イベントはやったことがなかったけど楽しかった。

(2) 成果

- ・高校生は小学生の関心を惹くプログラムの企画・立案をすることができた。クイズゲームのプログラムでは、問題文にイラストや画像を交えるなど、多くの児童が楽しめる工夫を凝らしていた。
- ・参加者はプログラムを通して、英語に楽しくふれながら体験学習をすることができた。
- ・高校生によるプログラムの進行は、小学生の性格や特性、英語のレベルに合わせてサポートすることができていた。
- ・高校生はイベントの運営に不慣れな中、小学生と積極的にコミュニケーションを図り、終始明るく賑やかな雰囲気で開催することができた。

(3) 課題

- ・事業の進行方法や小学生との関わり方・指導方法などを、高校生へ助言する機会を設けたい。
- ・当日の時間配分が難しかったため、活動時間の過不足に応じて対応できるよう準備を進める必要がある。

6 事業の様子



アイスブレイク



30 問クイズ



景品渡し



四コマまんがづくり



発表会



閉会式

担当 町田 友佳

「青少年の参画による体験活動推進事業」 (大学生といっしょに楽しく演劇ワークショップ)

1 事業目標

群馬大学演劇部テアトル・ヒューメの協力を得て、演劇の魅力や楽しさ等について、大学生や他の参加者と交流しながらより深く理解し、他者とのコミュニケーションや自己表現方法等を学ぶ。また、大学生の企画・アイデアを表現する機会とする。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年11月29日(土)
(2) 参加対象及び募集人数：小学3～6年生 20名程度
(3) 参加状況

ア 参加者合計 16名、 申込人数 17名(キャンセル1名)

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		3	13					16

イ スタッフ・講師(群馬大学演劇部テアトル・ヒューメ) 12名

3 事業実施のポイント

- ① 新規事業であり、群馬大学演劇部テアトル・ヒューメの大学生の企画やアイデアをプログラムの中で生かし、小学生が気軽に演劇を体験できるように内容や時間を工夫して実施した。
- ② 演劇の基本練習から、最後に舞台発表・鑑賞と、短時間で演劇に親しめるように工夫した。
- ③ 会場となるプレイホールの広さと舞台を有効に活用すると共に、児童一人一人の支援が十分にできるように参加児童を2班編制にした。

4 日程

日時	午 前 10:00～12:00	午 後	夜
12月 13日 (土)	・開会式、事務連絡 ・演劇ワークショップ (基本のストレッチ・声出し、エアボール投げゲーム、バス待ちジェスチャーゲーム、「桃太郎」台本読み練習、舞台発表・鑑賞) ・アンケート記入 ・ふりかえり ・閉会式	・大学生アンケート記入、ふりかえり	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

【演劇の楽しさ等を学ぶことができたか】
 ・よくできた 13人 ・できた 2人 ・あまりできなかった 0人 ・できなかった 0人 ・無回答 1人
 【大学生や他の参加者と仲良くすることができたか】
 ・よくできた 13人 ・できた 3人 ・あまりできなかった 0人 ・できなかった 0人
 (参加者 感想)
 ・お兄さんやお姉さんがやさしく教えてくれて、友達と協力して楽しく演劇ができてよかったです。また演劇をやりたいです。

- ・ボールジェスチャーや桃太郎、とても面白かったです。またこのような機会があればやりたいです。
- ・演劇経験はなくて、なりきるのが少し難しかったけど、大学生のお兄さんお姉さんや他校の子にアドバイスをもらったりして、いい「ももたろう」ができました。演劇をやってみて、とっても楽しかったので、またやりたいです。

(大学生 感想)

- ・基礎的なところから体を使った遊び、劇もできたので、演劇の楽しさを知るには良いプログラムだと思った。
- ・小学生と普段行っている演劇を通して関わることができ、またそれを踏まえて新鮮な気持ちになった。コミュニケーションをとる中で、より新たな演劇の視点が広がったように感じた。
- ・子ども達のパワーを感じられた。最初はモジモジしていた子も一生懸命に舞台に立っている様子が見られたり、しょげてしまった子どもに対して子ども自身が声をかけながら交流したりととても素敵なやりとりが見られて、こちらも非常に勉強になった。
- ・「演劇をしてみたい」という子ども達が思っている以上に多く、また子ども達もパワーがあり、参加者全体でワークショップを楽しめたように思います。演劇が楽しいという気持ちをみんなで広げられる良い機会になりました。
- ・自分から行動してくれる子や積極的に声を出してくれる子が多く、こちらもやっていたとても楽しかったです。時間もちょうどよく楽しめる時間だったのではないかなと思います。大学生の演劇もみてもらいたいですが、児童達の体験の時間も多くとりたいので、時間配分は難しいです。

(2) 成果

- ・大学生が考えたプログラム（部員作のオリジナル台本の上演等）で、全てを進行してもらった。皆が積極的に行動して、楽しんでいた様子からも新規事業として成功だったと思われる。
- ・参加者に大変好評の結果となり、講師の大学生はやりがいと手応えを感じたようである。継続して演劇ワークショップを行っていきたい、またぜひ参加したい等の前向きな意見が多く出たのも良かった。大学生とも協議し、次年度は9月26日(土)に事業実施で計画をしている。

(3) 課題

- ・募集20名に対して当日の参加者は16名で、募集定員に達しなかった。参加者募集の早い段階から、チラシ配布だけではなく、大学生にもSNSでの広報協力をしてもらおう等、参加人数確保のための対策は、考えるようにしたい。

6 事業の様子



基本練習（声出し）



エアボール投げゲーム



バス待ちジェスチャーゲーム



「桃太郎」台本読み練習



「桃太郎」舞台発表



「桃太郎」舞台発表・鑑賞

担当 櫻井 小百合

「体験活動・ボランティア活動支援センター」

1 事業目標

ボランティア活動を希望する青少年等と、それを必要とする地域の団体や機関との連絡調整を行い、協働の機会を提供する。また青少年および指導者のボランティア活動に関する情報を収集し、提供する。

2 事業概要

(1) 期日：通年

(2) 参加状況 8 件

ア ボランティア 17 名

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生 4~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数							17	17

(会館敷地清掃作業…みどりの会 合計3回、17名)

3 事業実施のポイント

- ① ボランティア紹介、指導者紹介について、Web 上で周知した。
- ② 県が主催する支援センターの情報交換会に参加し、関係機関と交流した。
- ③ 他の機関（ボランティアサロンぐんま等）との連携を図った。

4 活動・相談内容

活動・相談日	内容
4 月 12 日	みどりの会 清掃相談
4 月 15 日	伊勢崎市 企業人事担当者からの相談
5 月 9 日	みどりの会 清掃申請許可
6 月 23 日	みどりの会 第 1 回 清掃
7 月 3 日	NP0×Youth スポフェス 2025 相談（ボランティアサロンぐんま）
7 月 14 日	みどりの会 第 2 回 清掃
7 月 29 日	ボランティア活動希望の高校生
7 月 31 日	ボランティア活動希望の大学 1 年生
10 月 6 日	みどりの会 第 3 回 清掃
11 月 22 日	前橋市関根町自治会 ボランティア学生募集
12 月 5 日	多文化共生の事業相談（ボランティアサロンぐんま、NP0 ともくら）
12 月 12 日	玉村町生涯学習課 ボランティア学生募集

4 事業評価

(1) 参加者の満足度

(みどりの会…清掃作業)

団体の活動場所、参加者交流ができた。

(ボランティアサロンぐんま)

会館の地域団体応援事業として NP0×Youth スポフェス 2025 が開催でき、参加者の満足度も高かった。

(2) 成果

- ① ボランティア希望者やボランティア紹介について、数は少ないが問い合わせがあった。
- ② 清掃作業については、今年度も実施してもらい、参加者の交流機会となった。
- ② ボランティアサロンと連携し、共催事業を実施することができた。

(3) 課題

- ・相談者に対し、時期、内容などからうまく調整ができないことがあり、チラシ等で具体的なケース、相談から実施までのおおよその期間などを記載して、相談者に対し活動につながるコーディネートができるとよい。

6 事業の様子



清掃作業

担当 井口 堅太郎

(3) 青少年の交流・体験活動事業

「心のバリアフリー事業」 (ふれあい・ゆうあい交流フェスタ)

1 事業目標

障がいのある人となない人が共にふれあい、互いに理解し合える場づくりに向けて、障がいのある子どもを支援する団体や青少年団体関係者等と協働で実施する。

2 事業概要

(1) 期日：令和7年10月18日(土)～19日(日) ※10/18 会場準備

(2) 参加対象及び募集人数：一般来場者 400 名、ボランティア 100 名

(3) 参加状況

ア 参加合計(出演者・来場者等の合計) 649 名

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		100	94	74	76	23	282	649

イ スタッフ ・ボランティア 55 名(中学生、高校生)

・その他 36 名(協力団体、群馬県青少年団体連絡協議会等)

(4) ミーティング 年間4回実施(6月、8月、9月、10月)

3 事業実施のポイント

- ① 協力団体が昨年度から2団体増え、プログラム内容等について協議を重ねた。
- ② ギャラリーコーナーを新たに設け、作品の展示を行った。
- ③ 今年度のテーマ曲「にじ」に関連した共同作品コーナーを新たに行った。
- ④ 体験ブースは工作・運動・休息できるものを用意し、子どもの特性に合わせた安全なものを提供した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
10 月 18 日 (土)		・ 事業説明 ・ アイスブレイク ・ 歌とダンスの練習 ・ 研修 ・ 会場準備等	
10 月 19 日 (日)	・ ステージ発表 6 団体 (歌・ダンス・演奏等) ・ 体験ブース 8 ブース (缶バッチづくり、おも ちゃ・絵本コーナー等) ・ 販売コーナー 5 団体 (野菜、焼菓子、雑貨等) ・ 展示、パネルコーナー 11 団体	※午前と同様(～15:00)	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

1 ボランティア

・ 他校や学年の壁を超えて打ち解けることができ、すごく貴重な体験ができました。

- ・障がい者のある子どもと触れ合うことで大変さを学ぶことができたが、それ以上に楽しさを学べて良かった。
- ・障がいのある方と実際に会って楽しんだり、一緒に何かを作ったりする体験を今までして来なかったため、初めての気づきがあったので参加して良かった。

2 群馬県青少年団体連絡協議会

- ・事前にやることを決めて、準備に取り組むことができたと思います。前日の準備・研修の時から、ボランティアの方同士で交流を深められたと思います。
- ・内容がとても充実したものになっていて、計画がしっかりと行われていたと感じた。全体的な雰囲気は和やかで活動しやすく、活発に意見も出しやすかった。また参加したいと思うボランティア活動だった。
- ・今回は来場する人数が少なく、周知や人がたくさん来てくれる（お馬さん）などの少し目立つものがあると、来場者を UP できると思う。

(2) 成果

- ・協力団体および群馬県青少年団体連絡協議会による指導が行き届いており、ボランティアからの満足度が非常に高かった。昨年度からのリピーターもあり、長年ニーズのある事業であることがうかがえる。
- ・今年度から新たにおもちゃを借用し、子どもの滞在時間を増やすことができた。
- ・バザーコーナーで新規1団体・復帰1団体がそれぞれ増え、規模を拡大することができた。

(3) 課題

- ・前日準備の欠席者は例年多く、準備に係る人員や時間が不足している。
- ・ボランティアの定員 100 名に満たなかった。部活動単位での依頼も検討したい。
- ・来場者が昨年度より減少したため、周知方法を工夫するとともに、屋外ブースの再開も視野に入りたい。
- ・近年、市内小学校による運動会の順延日と重なる学校が多く、次年度の開催日について協力団体と協議した。意見交換を行った結果、様々な観点から例年通りの日程となったが開催日については慎重に決定していきたい。

6 事業の様子



事前研修・前日準備



ステージ発表



体験ブース (ゆったりコーナー)



バザー (販売コーナー)



模擬店



ボランティア集合写真

担当 町田 友佳

「親子ふれあい体験教室(おやこ木工教室)」

1 事業目標

木工作品制作、ネイチャークラフト、レクリエーション等の共同・協力作業を通して、親子の絆や参加者同士の交流を深め、新たな人間関係のネットワークの構築を図る。

既定の作品を手順通りに作るのではなく、木材や天然素材から自由に作品を作り上げることで、個々の想像力を養う。青少年が主体的に課題に取り組み、自身の意思を反映する機会を作り、自主性や積極性を培う。

2 事業概要

(1) 期日：令和7年7月19日(土)～20日(日)1泊2日

(2) 参加対象及び募集人数：県内在住の小学校3～6年生の親子10組20名程度

(3) 参加状況

ア 参加者合計25名(参加家族数12世帯)、申込人数35名(キャンセル2名)

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		5	8				12	25

イ スタッフ レクリエーション講師2名(群馬VYS連絡協議会)

木工作品制作講師2名、ネイチャークラフト講師1名

高校生ボランティア2名

ウ 延べ参加人数(参加者×日数)25名×2日=50名

3 事業実施のポイント

- ① 昨年度に続き、宿泊ありの日程で、1日目はレクリエーションと木工作品制作、2日目は自然の素材を活用したネイチャークラフトを行う。
- ② 木工作品制作では、昨年度と同様に材料の木材を1家族1本配付し、オリジナル作品を制作する。ネイチャークラフトでは、用意した材料の中から好きなものを選び、切る・割る・削るといった加工方法も自由に選択し、各々が想像した作品を形にする。
- ③ 昨年とは異なり、レクリエーション会場は音楽室で行う。食事は館内の食堂を利用する。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
7月 19日 (土)		開講式 レクリエーション 木工作品制作 ・道具の使い方 ・共通作品の制作 ・オリジナル作品の制作	夕食 木工作品制作 ・オリジナル作品制作の続き 会場清掃 作品鑑賞 入浴 就寝
7月 20日 (日)	起床 朝食 宿泊室の整頓、清掃、退出 ネイチャークラフト ・講義、道具の使い方 ・オリジナル作品の制作 会場清掃、作品鑑賞 ふりかえり、閉講式		

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

☆参加者親子（回答数 13）

【木工作品制作】

- とても楽しかった 10、楽しかった 1、少し難しかった 1、難しかった 1
- ・ノコギリの作業が思ったより大変でびっくりした。
 - ・糸のこがおもしろかった。きれいになめらかに切れるととても気持ちが良い。
 - ・たいらに切るのがむずかしかった。

【ネイチャークラフト】

- とても楽しかった 10、楽しかった 3、少し難しかった 0、難しかった 0
- ・天然素材を使うむずかしさがおもしろかった。
 - ・木を削る作業が大変だった。木の繊維やふし等 1 本 1 本違って、それに合わせた物を作るのは楽しい。
 - ・座りながら削る機械がおもしろかった。石づちを使うと早く安全に木が割れると知って驚いた。

【参加者と話ができたか】

- たくさん話せた 2、話せた 3、少ししか話せなかった 7、あまり話せなかった 1

☆高校生ボランティア（回答数 2） 19 日のみ

【小学生へのサポートについて】

- よくできた 1、できた 1 ・積極的に声をかけた。

【小学生とのふれあいについて、楽しくふれあうことができたか】

- よくできた 1、できた 1
- ・さまざまな人と交流することができてよかった。 ・明るい方ばかりで直ぐなじめた。

(2) 成果

- ・協力して作業をすることで、親子でふれあい絆を深める機会にすることができたようだ。
- ・講師の適切な指導によって参加者全員が作品を仕上げることができ、皆が満足そうだった。
- ・高校生ボランティアが明るい表情で、積極的に適切なサポートをしていた。

(3) 課題

- ・概ね良好の意見の一方で、他の参加者とあまり話せなかったとの意見が昨年度と同様にあった。作品鑑賞以外でも、参加者同士が交流を深められる方法を何かしら設定する必要がある。
- ・高校生ボランティア募集は 1 日目のみだったが、作業内容が限られたため検討も必要である。

6 事業の様子



レクリエーション



道具の使い方の説明



糸ノコギリを使う



ノコギリを使う親子



木工作品と記念撮影



ネイチャークラフト制作

担当 櫻井 小百合

「高校生写真講座～デジカメワークショップ～」

1 事業目標

デジタル写真に対する基礎的な知識や写真制作等の技能を高める機会を高校生に提供する。
班活動によるワークショップや、写真撮影および組み写真作品の制作・発表等を通して、参加者同士の交流を図る。また、他事業で撮影ボランティアとしての活動機会を提供する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年6月14日（土）
 (2) 参加対象及び募集人数：県内在住・在学の高校生（一年生のための写真講座コース40名程度、
 二・三年生のための写真講座コース70名程度）
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 104名、 申込人数 112名（キャンセル8名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
合 計					104			104

イ スタッフ ・ボランティア 0名
 ・講師 5名 ・その他16名（講師補助）

3 事業実施のポイント

- ① 講座内容を【一年生のための写真講座】と【二・三年生のための組写真講座】にわかれて実施した。
 ② 大学教授や経験豊富な県内写真部顧問の先生を講師として招き、カメラの基礎知識の習得や組写真制作をより上達できるよう支援した。
 ③ 本講座で得た知識を生かせるよう、撮影ボランティアとして活動する機会を提供した。
 ④ 学校を混合して班を編制し、撮影活動を通して参加者同士の交流を図った。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
6月 14日 (土)	【二・三年生のための写真講座】 ・開講式 ・講義 日本大学藝術学部写真学科 教授 西垣 仁美氏 准教授 穴吹 有希氏 組写真の作り方及び構成 ・撮影活動 場所：敷島公園・ばら園	・撮影活動 場所：敷島公園・ばら園 ・組写真制作・作品発表の準備 プリンタの使い方 写真印刷 ・作品発表・講評 ・閉講式	
6月 14日 (土)	【一年生のための写真講座】 ・オリエンテーション ・講義 群馬県立桐生清桜高等学校 写真部顧問 橘伸一朗氏 日本大学藝術学部写真学科 教授 秋元 貴美子氏 基本的なカメラの使い方	・実習 ばら園での撮影活動 ・作品講評会 ・閉会	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

○二・三年生のための組写真講座 参加者

【講義】とてもよくわかった 30 わかりやすかった 11 難しかった 0 とても難しかった 0
・文字の説明だけでなく、写真を使って説明してくださりわかりやすかったです。

【撮影活動・組写真制作】とてもよくできた 13 よくできた 17 あまりできなかった 1 全然できなかった 0

・チームでの活動でみんなで話し合いながら良い組み写真ができた。

【交流】思ったより話ができた 14 話ができた 15 あまり話せなかった 4 全く話ができなかった 8

・他校の人と話すことで親睦を深めることが出来、良い写真が撮れました。

○一年生のための写真講座 参加者

【講義】とてもよくわかった 33 わかりやすかった 28 難しかった 2 とても難しかった 0
・基礎的な撮影方法・色の対比や構図・タイトルの付け方などのアドバイスが頂けて良かった。

【撮影活動】とてもよくできた 21 よくできた 35 あまりできなかった 7 全然できなかった 0
・雨の中での撮影は初めての体験だったが、良い写真が撮れ良い経験になりました。

【交流】思ったより話ができた 36 話ができた 18 あまり話せなかった 8 全く話ができなかった 1

・お互い評価し合ったり被写体になったりすることで自分にはない引き出しが増えました。

(2) 成果

・日大藝術学部写真学科の教授に講師を務めて頂き、組写真の作り方や構図について専門的な視点で講義を受けられた。
部活だけでは知ることのない他校とのふれあいがあったり、カメラの基礎からの操作方法等を学ぶことができた。

(3) 課題

・組み写真の制作活動では初対面のため、班内であまり意見交換できない参加者がいた。

6 事業の様子



技能講習会 講義



撮影実習



写真作品印刷



写真講座 講義



組み写真制作



作品講評会

担当 中澤 享子

「交流文化体験」

1 事業目標

児童と留学生、高校生ボランティアが海外や日本の文化をテーマとした体験活動を通じて、多様な価値観に触れるとともに異年齢集団における交流を図る。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年6月28日（土）、29日（日）
 (2) 参加対象及び募集人数：両日ともに小学校3～6年生 20名程度
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 20名、申込人数 23名（キャンセル3名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		7	13					20

イ スタッフ 留学生5名、伝統芸能体験講師 2団体24名
 高校生ボランティア 延べ12名、青少年団体4名

3 事業実施のポイント

- ① 留学生による自国文化の紹介や体験プログラムを通して、小学生が異文化に触れる。
 ② 日本の伝統芸能に触れる体験活動を通して、留学生と小学生が交流する。
 ③ 高校生ボランティアに対し、小学生の体験活動をサポートする機会を提供する。

4 日程

日時	午 前	午 後
6月 28日 (土)	- 留学生の会場準備、外国の文化体験プログラムの打ち合わせ - 高校生ボランティアへの事業概要及び活動内容説明 - 青少年団体指導者と運営補佐の打ち合わせ	- 青少年団体指導者によるアイスブレイク - 留学生による、インド・ポーランド・インドネシアの文化紹介とインドネシアの遊びの体験 - 伝統芸能体験：古馬牧の人形浄瑠璃 浄瑠璃の解説、人形の操作体験、浄瑠璃鑑賞 指導者：下牧人形芝居保存会吉田座 協力：公益財団法人群馬県教育文化事業団
6月 29日 (日)	- 留学生の会場準備、外国の文化体験プログラムの打ち合わせ - 高校生ボランティアへの事業概要及び活動内容説明 - 青少年団体指導者と運営補佐の打ち合わせ	- 青少年団体指導者によるアイスブレイク - 留学生による、中国・マレーシアの文化紹介と遊びの体験 - 伝統芸能体験：植野稲荷神社太々神楽 神楽「二ツ狐」鑑賞、神楽の面体験、狐のお面クラフト制作、神楽の舞体験 指導者：植野稲荷神社太々神楽保存会 協力：公益財団法人群馬県教育文化事業団

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

☆児童【28日（土）】
【留学生の話】よくわかった7、少しわかった3、少し難しかった0、難しかった0 ・いろいろな食べ物の話がおもしろかった。 ・ヘビのゲームとかがあって楽しかった。等
【浄瑠璃】楽しかった5、少し楽しかった4、少し難しかった0、難しかった1 ・人形の動きが人とそっくりでびっくりした。 ・人形が思ったより重い。等
【留学生や参加者と話ができたか】 たくさん話せた6、話せた4、少ししか話せなかった0、あまり話せなかった0

☆児童【29日（日）】

【留学生の話】よくわかった3、少しわかった4、少し難しかった1、難しかった1、無回答1

・中国の顔認証がすごいと思いました。 ・食べ物が独特な感じだった。

【神楽】楽しかった6、少し楽しかった0、少し難しかった1、難しかった2、無回答1

・笛の音楽がいいと思った。 ・先生とやって楽しかったです。

【留学生や参加者と話ができたか】

たくさん話せた5、話せた1、少ししか話せなかった1、あまり話せなかった2、無回答1

☆留学生（両日）

・日本文化に触れて、楽しく学びました。 ・みんなはとても協力的だった。

・子ども達みんなもすごく楽しんでくれて、とても感動しています。

☆高校生ボランティア（両日）

・積極的に話しかけるようにし、難しそうな時は声をかけて手伝うようにした。

・小学生と関わる機会がほとんどなかったが、活動を通して楽しくふれあうことができ、良かった。

・子ども、外国、日本文化等、高校生にはもったいないくらいの体験ができて良かったです。

（2）成果

・青少年団体によるアイスブレイクは、参加者同士のコミュニケーションを深める効果を感じた。

・留学生企画のプログラムは、参加者も積極的に参加しようとする姿勢を感じることができた。

・人形浄瑠璃では実際に使用する人形を操作する体験、神楽では実物の面を着ける体験ができて、大変貴重だったと思われる。伝統芸能のプログラムは、とても有意義なものとなった。

・高校生ボランティアの皆が、明るい表情で積極的に適切なサポートをしていた。

（3）課題

・伝統芸能のプログラムは楽しかったという感想が多かったが、難しく感じた参加者もいた。参加者にはわかりやすく、より楽しんでもらえるような工夫とサポートが必要である。群馬県教育文化事業団の協力が不可欠なプログラムであり、内容の検討、見直しも必要である。

・高校生ボランティアへの事前説明は短時間だったので、プログラムに応じて、事前に詳しい内容を伝えるようにする等、研修の内容・時間を適切に設定することが望ましいと思われる。

・両日とも小学生の参加者が募集の定員に達しなかったので、広報の面では早めの対応が必要である。時期や内容を見直して、2日間ではなく、1日にまとめた開催でもよいと思われる。

・プログラムが多項目だと内容が散漫になりがちである。より深く国際交流を主軸とした内容で行い、それに伴い、留学生の確保が難しい場合は、群馬大学以外での留学生の紹介も検討する。

6 事業の様子



アイスブレイク



留学生によるプログラム



インドネシアのあそび



人形の操作体験



狐のお面クラフト制作



神楽の舞体験

担当 櫻井 小百合

「小学生イラスト講座」

1 事業目標

児童と高校生ボランティアが制作活動を通して、美術の興味・関心を高めるとともに、作品制作における創造性や技術を育むことを目的とする。
イラストの作品鑑賞を通して、参加者同士や異年齢と交流を図る。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年11月23日（日）
 (2) 参加対象及び募集人数：県内在住の小学生（4～6年生）25名
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 18名、 申込人数 66名（キャンセル7名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
合 計			18					18

イ スタッフ ・講師 4名

3 事業実施のポイント

- ① 専門学校の教員を講師として招き、イラスト制作における基礎的な知識や技法を小学生に指導した。
 ② 作品完成後に鑑賞会を行い、参加者同士が直接交流できるようプログラムを工夫した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
11月 23日 （日）	・開講式 ・画材練習 ・作品制作開始 下描き 転写	・作品制作のつづき ペン入れ 色鉛筆 色塗り ・作品の額装 ・作品鑑賞会 ・片付け、ふりかえり ・閉講式	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

○参加者（小学生）
 【作品制作に楽しく取り組めたか】
 とてもそう思う 18 少しそう思う 0 あまりそう思わない 0 全くそう思わない 0
 【他の参加者と交流できたか】
 とてもそう思う 11 少しそう思う 3 あまりそう思わない 4 全くそう思わない 0
 ・初めて行ったけど先生たちがやさしくアドバイスをしてくれたことで、自分の絵に自信を持てました。
 ・今までとはちがう絵の描き方、ぬり方を学べたので、絵を描くとき今日教えてもらったやり方でやろうと思いました。またやりたいです。

(2) 成果

- ・導入で自己紹介をする時間を設けたため、講師と小学生が互いに打ち解けあうことができた。作業BGM的に、講師が補助の学生に「小学校の頃はどんな絵を描いていたか」などインタビューして、子どもたちとコミュニケーションを取りながら進めており、終始和やかな雰囲気であった。
- ・講師が作業毎に注意事項やポイントを伝えており、子どもたちが安心して制作を進めることができた。
- ・講師は参加者一人一人に寄り添い、個別での指導やサポートを行っていた。制作スピードに差が出てきても、焦らずじっくり描くことが大切と常に声かけをしており、子どもたちが安心して制作に取り組むことができた。
- ・制作が早く進んでいる子や6年生には、少し難しい応用的な技術にチャレンジできるような声かけをするなど、個人のペースや力に合わせた内容となるよう工夫していた。

(3) 課題

- ・事業内容にその年度の特徴を加えるための検討が必要である。
- ・今年度は冬の開催であったため、当日の体調不良によるキャンセルが多く発生した。

6 事業の様子



画材練習



作品下描き



線画



色塗り（色鉛筆）



色塗り（絵筆）



作品鑑賞会

担当 齋藤 唯

「企業コラボ事業」 (光るどろだんごを作って、陶器製品を知ろう!)

1 事業目標

株式会社 LIXIL トータルサービスの協力を得て小学生に企業の製品の歴史などについてスタッフの方と交流しながら理解を深める。

また、どろだんごづくりを行い、土から陶器のような光るどろだんごへの変化を体験する。それぞれのオリジナル作品を参加者で鑑賞する機会とする。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年10月5日（日）
- (2) 参加対象及び募集人数：小学生（1～6年）20名程度
- (3) 参加状況

ア 参加者合計 19名

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		12	7					19

イ スタッフ ・株式会社 LIXIL トータルサービス スタッフ 8名

3 事業実施のポイント

- ① 新規事業として、協力企業を探し、事業実施する。
- ② 職場体験ではなく、企業の製品などの理解を深め、興味を持つきっかけを作る。
- ③ 小学生同士、スタッフとの交流ができるような事業とする。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
10月 5日 (日)	・陶器製品、どろだんごについての説明等 ・どろだんごづくり体験 ・作品鑑賞（発表）		

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度（事業参加者の感想等について）

1 小学生

ア 企画についての理解（陶器製品のことについて知ることができましたか）
よくわかった 69%、わかった 26%、あまりわからなかった 5%と多くの参加者が知るきっかけとなった。

イ どろだんごづくり体験（自分の作りたいどろだんごは作れましたか）
つくれた 63% まずまずつくれた 21%、うまくできなかった 16%とそれぞれが自分のアイデアを盛り込んでどろだんごをつくることができた。

ウ 交流（スタッフとの交流）
よくできた 47%、できた 53%との回答であり、多くの参加者がスタッフと交流できたと考え

られる。

エ 感想

- ・楽しかったという意見が多く、陶器製品を知ることができたという意見もあった。
- ・友達など、色々などろだんごを見ることが出来てよかった。

(2) 成果

- ・昨年度から2年目の実施だったが、昨年度とは違う企業さんに引き受けていただき、事業実施することができた。
- ・企業の製品である陶器製品について、関心を持ちきっかけとすることができた。
- ・スタッフだけでなく、同じテーブルの児童とも交流しながら、楽しく体験をすることができた。

(3) 課題

- ・応募者が190名程度に対し、参加定員は20名（応募者多数のため30名に増やしていただいた）であり、体験できる人数に限りがあった。また、兄弟応募で片方が落選するとキャンセルとなることがあったため、こちらについては、応募方法を検討したい。
- ・首掛け名札のひもが長く、机の下に隠れるなどしてしまったため、名前が確認しづらくコミュニケーションを取るための時間が少しかかったという意見があった。また、時間に余裕があれば自己紹介などの時間を設けてもよかった。
- ・今回の体験で初めて金色などの色を表現するためにアクリル絵の具を採用したが、絵の具の剥がれがあり、磨く工程が十分にできないこともあった。
- ・協力していただける企業を探すことが難しいため、候補企業を事前に調査しておくことが必要となる。

6 事業の様子



LIXIL トータルサービス
社員の方による陶器製品の説明



どろだんご削り作業



どろだんごの色づけ



どろだんごの乾燥



どろだんご磨き



作品発表

担当 井口 堅太郎

(4) 青少年団体の育成及び指導事業

「青少年団体活動支援事業」

(夏休み宿題お助け隊)

1 事業目標

群青連協加盟団体が連携して、子ども達の課題解決能力や社会性を育む。
各青少年団体の活動経験を生かして高校生ボランティアの養成を行い、団体活動やボランティア活動の魅力を発信する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年8月2日（土）～3日（日）
 (2) 参加対象及び募集人数：各日小学1～6年生100名程度・高校生ボランティア30名程度
 (3) 参加状況（2日間計）

ア 参加者合計 176名、 申込人数 335名（キャンセル61名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年			中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
合 計		90	86							176

イ スタッフ ・運営スタッフ（群馬県青少年団体連絡協議会） 35名
 ・高校生ボランティア 58名

3 事業実施のポイント

- ① 今年度から宿題の種類に書道を追加して「読書感想文コース」「絵画ポスター書道コース」の2コースとし、参加者のニーズに応えた。
 ② 体験プログラム（ミニ茶道体験）を実施し、日本の文化にふれる機会を提供した。
 ③ 体験活動では紙皿フリスビーの作成および、チーム対抗戦のフリスビー飛ばしを行い、参加者や高校生ボランティアが交流を深められるよう配慮した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
8月2日 （土）	・運営スタッフ集合 ・高校生ボランティア集合	・体験プログラム ミニ茶道体験 ・宿題再開	
8月3日 （日）	・高校生ボランティア 事前研修 ・参加児童受付 ・開会式 ・宿題開始	・体験活動 紙皿フリスビーづくり フリスビー飛ばし ・閉会式 ・高校生ボランティア ふりかえり	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

(参加者：小学生)
 ・お兄さん・お姉さんと楽しく宿題に取り組むことができましたか
 とてもそう思う 140 少しそう思う 24 あまりそう思わない 4 全くそう思わない 0
 ・みんな（小学生、お兄さん・お姉さん）と仲良く過ごせましたか
 とてもそう思う 124 少しそう思う 41 あまりそう思わない 3 全くそう思わない 0

- ・読書感想文も書けたし、宿題も進んだし、みんなと仲良くなれて嬉しかったです。
- ・お兄さんお姉さんが色々なコツを教えてくれたので、絵がとても上手に描けました！
- ・本日はありがとうございました。無事に宿題を完成させることが出来て良かったです。茶道体験や、フリスビーも楽しかったです。また機会があればお願いします。

(高校生ボランティア)

- ・沢山子どもたちと協力し合いながら宿題を完成させることができ、達成感がありました。
- ・初めは少し緊張していたけど、交流をする中で仲良くなり、一緒に考えながら楽しむことができた。
- ・色の配色などを一緒に考えたりして楽しかった。完成した時の笑顔でこっちも笑顔になった。

(運営スタッフ：群青連協)

- ・小学生が宿題をする機会ができて、良いプログラムだと思いました。また、自分も子ども達と交流できて、子ども達自身も新しい友達が作れる良い機会だと思いました。
- ・沢山の子どもが自分の宿題に真剣に取り組み、体験活動では楽しく遊べていて良かったです。

(2) 成果

- ・群青連協スタッフや高校生ボランティアは、子どものやる気を引き出すような声かけや宿題の支援を行うことができた。初めは緊張のためか小学生、高校生ともに大人しい様子だったが、宿題のサポートを通じた交流で次第に打ち解けて楽しそうな雰囲気になっていった。
- ・ミニ茶道体験では、群馬県茶道会青年部員をはじめとするスタッフの指導のもと、希望者全員が体験することができた。
- ・体験活動（紙皿フリスビー）では、群青連協スタッフや高校生ボランティアがサポートしながら安全に実施できた。フリスビー飛ばしで得点を競い、交流を深めることができた。

(3) 課題

- ・1日目にポスターの持ち帰り忘れがあったため、2日目からは最初に画用紙の裏に名前を書いてもらうようにした。予め記名するよう参加者への連絡に追記する等の対処をしたい。
- ・宿題を早めに終わらせた子どもに対し課題を与えるなど、退屈させない工夫をする。
- ・群青連協スタッフと高校生ボランティアが、気軽に声を掛け合って連携できるようにするための方法を検討していきたい。

6 事業の様子



高校生ボランティア 事前研修



宿題の支援(読書感想文)



宿題の支援(ポスター)



ミニ茶道体験



紙皿フリスビーづくり



フリスビー飛ばし

担当 小林 俊輔

「青少年団体活動支援事業」 (夏休み子ども茶道教室)

1 事業目標

茶道を通じた体験教室を実施するため、群馬県茶道会青年部部長と青少年会館が協働して、企画・立案をする。また、その成果を事業として実践する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和6年8月24日(日)
 (2) 参加対象及び募集人数：小学1～6年生 午前・午後の部 各10名程度
 (3) 参加状況

参加者合計 20名、 申込人数 69名(キャンセル4名)

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		8	12					20

3 事業実施のポイント

- ① 入門者向けのプログラムとして、小学生が気軽に体験できるようテーブル茶道の形式で実施した。
- ② 講師が点てたお茶と参加者自身が点てたお茶を飲み比べ、点て方によって味が変わることを体感した。
- ③ 生菓子(楊枝の使い方)や干菓子(手を使っても良い)などの、食べ方を学んだ。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
8月 24日 (日)	・開講式、事務連絡 ・茶道体験 (お茶の説明・お菓子の頂き方・お茶の点て方・道具の紹介) ・アンケート記入 ・閉講式	・開講式、事務連絡 ・茶道体験 (お茶の説明・お菓子の頂き方・お茶の点て方・道具の紹介) ・アンケート記入 ・閉講式	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

【習ったことは分かったか】

よく分かった 15人、だいたい分かった 4人、難しかった 1人、とても難しかった 0人

【周りの参加者に心づかいをすることができたか】

よくできた 7人、だいたいできた 9人、あまりできなかった 3人、ぜんぜんできなかった 1人

(参加者 感想)

・道具の使い方が良くわかりました。お茶の点て方は、丁寧にしないとあまり泡が立たないので優しく点てないとダメなことがわかりました。

- ・抹茶をたてるのが楽しかったし、お菓子も美味しかったです。

(群馬県茶道会青年部 感想)

- ・低学年の子どもたちは、お抹茶が苦いといい、残す子どもたちが多かった。
- ・定員は今回 10 名程度だったが、お道具がもう少し揃えば人数を増やしても良いと思った。
- ・子どもたちとのふれあいに多少戸惑う部分もあった。
- ・生菓子の食べ方や、懐紙の使い方が難しかったようだ。

(2) 成果

- ・受付後会場に入って、緊張感の為泣き出す小学生もいたが、徐々に慣れた様子でお菓子が美味しいと食べてくれた。お抹茶は、苦いと言っていた。
- ・最初お茶を点てるのに皆戸惑っていた様子だが、二回目には上手に点てられるようになった。
- ・少人数制のため、きめ細かな指導をすることができた。

(3) 課題

- ・参加が小学生のみのため飽きてしまい、お道具の扇子を開いたりして遊び始めてしまう子が見うけられた。
- ・緊張感している子どもたちもいて、雰囲気づくりが必要だと感じた。
- ・お茶道具の説明の際には、テーブルの周りに集まって貰い、一つ一つ説明した方が良かったと思う。

6 事業の様子



作法の説明



茶道具の説明



体験：お菓子の頂き方



体験：お茶の飲み方



体験：お茶を点てる



参加者が使った茶道具

担当 中澤 享子

「青少年団体活動支援事業」 (おやこで茶道教室)

1 事業目標

参加する児童とその保護者が体験を通して、茶道に対する関心を高めるとともに、おもてなしの心を育むことを目的とする。
事業の実践を通して茶道会青年部の活動を周知する。

2 事業概要

(1) 期日：令和7年12月7日(日)

(2) 参加対象及び募集人数：親子(小学生1名と保護者1名)計20組40名

(3) 参加状況

ア. 参加者合計 36名、申込人数 92名(キャンセル 8名) ※家族数 18世帯

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生 4~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
合 計		8	10				18	36

イ. スタッフ・ボランティア 7名(群馬県茶道会青年部)

3 事業実施のポイント

- ① 午前の部・午後の部で、茶道を通して親子で日本文化にふれてもらう。
- ② 教室が始まる前に、靴下を履き替え手洗いをするなど衛生面に注意して行った。
- ③ クリスマスにちなんだ絵柄の茶器を使って、楽しくお茶をいただけるよう工夫した。
- ④ 子どもから親へお茶を点てることで、日頃の感謝の気持ちを伝えた。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
12月 8日 (日)	・開会式、事務連絡 ・茶道教室 - 先生のお点前 - お道具の説明 - お菓子のいただき方 - お茶の飲み方 - お茶の点て方・練習 - チャレンジミニ茶会 ・閉会式 ・アンケート記入	・開会式、事務連絡 ・茶道教室 - 先生のお点前 - お道具の説明 - お菓子のいただき方 - お茶の飲み方 - お茶の点て方・練習 - チャレンジミニ茶会 ・閉会式 ・アンケート記入	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

アンケート回答：18
1 茶道教室で学んだ内容の理解度
とてもわかりやすかった 12 わかりやすかった 5 難しかった 1 とても難しかった 0
2 おもてなしの心をもってお茶を点て合えたか
よくできた 15 まあまあできた 3 あまりできなかった 0 全くできなかった 0

(小学生：感想)

- ・自分でお茶を点てられたのが楽しかった。
- ・来年も参加したい。楽しく茶道が出来た。
- ・初めてお茶を点てたけれど、色々わかって良かった。
- ・お茶を点てるのが難しく、泡がなかなか出来なくて大変だったけど、とても楽しかった。

(保護者：感想)

- ・日本文化を学べる貴重な体験が出来てとても良かった。
- ・和菓子も季節を感じ、久しぶりの抹茶もとても美味しかった。茶器の柄がそれぞれ違い、きれいでびっくりした。
- ・茶道体験を出来ることがなかなか無いので、貴重な体験になった。実際に、お茶を点てることが出来、子どもも楽しそうにしていた。

(2) 成果

- ・午前・午後の部とも、楽しんでもらえて良かった。
- ・参加者の反応を見る限りやって良かったと思える内容だった。皆さん前向きで、こちらが元気を貰えた。
- ・茶道人口が減る中、子どもの頃からお茶に触れる機会を体験して貰い、少しでも興味を持ち大人になってからも、お茶の世界にいそしんでもらえると嬉しい。

(3) 課題

- ・抽選で参加できない応募者が多いので、講師の人数が集まれば、午前・午後とも2組くらい多くできるか検討したい。
- ・1年生～6年生まで幅が広いと、体験活動の進行に差が出る傾向がある。午前は低学年、午後は高学年など、発達段階に応じた支援ができるようなプログラム構成の工夫をしたい。

6 事業の様子



開会式



先生のお点前



お菓子のいただき方



お茶のいただき方



チャレンジミニ茶会



閉会式

担当 中澤 享子

「青少年団体活動支援事業」 (あつまれ！子どもひろば)

1 事業目標

青少年団体の振興・育成のため、各青少年団体との連携を一層深めるとともに共催事業や連携事業を企画・実施する。

県内の小学生に対して、遊びや創作活動を通して他者との交流を図り、人と関わることの楽しさを感じるとともに、社会性・主体性を育むことを目的とする。

2 事業概要

(1) 期日：令和8年1月25日(日)

(2) 参加対象及び募集人数：小学生(1～6年)30名程度、高校生ボランティア15名程度

(3) 参加状況

ア. 参加者合計 31名

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数	0	24	7	0	0	0	0	31

イ. スタッフ ・群馬県青少年団体連絡協議会スタッフ13名

・高校生ボランティア24名

3 事業実施のポイント

- ① 体を動かして新しい友達をつくろうという目的で行う。
- ② 高校生ボランティアの育成と、小学生との関わり方を体験させる。
- ③ 可能な限り高校生ボランティアの受入人数を増やした。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
1月 25日 (日)	・群青連協スタッフ集合 ・高校生ボランティア集合(事前研修) ・開会式 ・宝探し グループごとにガチャ ガチャのカプセルを探 してクイズを解く ・昼食	・ドッジビー大会 各チーム2回試合行う ・ドッジビー結果発表 ・閉会式 ・各アンケート記入	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度(事業参加者の感想等について)

- 1 小学生
- ア. 事業のねらい(ガチャガチャのカプセルクイズとドッジビーを楽しむことができたか?)
とてもよくできた 100%、まあまあできた 0% あまりできなかった 0%
- イ. 事業のねらい(グループの人やお兄さん、お姉さんと仲良くすごせたか?)
とても仲良くできた 68% 仲良くできた 29% あまり仲良くできなかった 0%
全然できなかった 3%
- ウ. 交流(お兄さん、お姉さんと楽しく話せたか?)
すごく楽しく話せた 74%、楽しく話げた 26% 少し話すことができた 0% との回答で

あり、多くの参加者が楽しく交流できたと考えられる。

エ. これから参加してみたい教室は？
ドッジボール／ドッジビー (3) リレー (3) サッカー (2) おにごっこ (2) かくれんぼ (2) 宝探し (2)

オ. 感想
高校生と友達になれて嬉しかった 宝探しが楽しかった ドッジビーが楽しかった
なぞなぞを解いたり、みんなと仲良くお弁当を食べて楽しかった

2 高校生ボランティア

ア. 子どもたちとコミュニケーションをとることができたか
よくできた 58%、できた 38%、あまりできなかった 4%
良くできたのは、子どもの目線で話せた。声のトーンを明るく笑顔で寄り添うことができた。たくさん子どもと話すことができた。
難しかったことは、どんな話題がいいのかがわからなかった。特定の子としか一緒にいられなかった。考えていることがわからない子もいたので、対応や仲良くなるのが難しかった。

イ. その他の感想など
本日が初めてのボランティアで、一人で参加し緊張したが、子どもとの接し方を学ぶことができた。
ボランティア活動は大変だったが楽しかった。また機会があれば参加してみたい。
参加した小学生とたくさん会話ができて楽しかった。
普段子どもとふれあう機会があまりないので、接し方や関わり方が勉強になりました。

(2) 成果

- ・宝探しは、楽しく面白かったようだ。
- ・ドッジビーは、全員が盛り上がり良かった。
- ・アイスブレイクがあったため、子ども達と高校生の距離が近づいて良かった。
- ・適度に休憩を入れながら余裕を持って、プログラム進行ができた。
- ・子ども達が積極的に参加し、高校生の交流も盛んだったので良かったと思う。

(3) 課題

- ・活動内容をフリーとしないで、イベントの方向性を決めて行うようにした方がよいと感じた。
- ・打合せ等で情報の伝達不足が多く、スタッフの共通理解が難しかった。

6 事業の様子



開会式



アイスブレイク 1



アイスブレイク 2



宝探し



ドッジビー



閉会式

担当 中澤 享子

「青少年団体活動支援事業」 (スカウトと上州の社会人をつなぐ場所)

1 事業目標

これから社会にでていく年代の高校生・大学生等を対象に、スカウト活動やボランティア活動で培ったスキルや体験を企業・社会でどのように生かすことができるかを学ぶ。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年12月7日（日）
- (2) 参加対象及び募集人数：大学生世代のスカウト及び指導者
ボランティア活動の経験がある一般高校生等
- (3) 参加状況

ア 参加者数（実人数） 23名、申込人数 23名（キャンセル0名）

内 訳	未就学児		小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数						3	17	3	23

イ 講師 1名

3 事業実施のポイント

- ① これまで、日本ボーイスカウト群馬県連盟主催で開催していたものを共催により実施した。
- ② ボーイスカウト入団経験のある方を講師に選出した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
12月 7日 (日)		・ オープニングセレモニー - 開会の言葉 - 国旗儀礼 - 主催者挨拶 - 講師紹介 ・ 講演 ・ 質疑応答 ・ クロージングセレモニー - 県連代表挨拶 - 国旗儀礼 - 閉会の言葉	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

- ・ 「とにかく行動する」「挑戦に飛び込む」ことの大切さを学んだ。
- ・ ボランティア活動やスカウト活動を通じて、積極的に経験を積んでいきたい。
- ・ これまでなんとなく活動していたが、今後は意欲的に取り組んでいきたい。
- ・ 今回の講義を通して、活動を通じた仲間づくりや人間関係の大切さを再認識できた。
- ・ 就職や人生設計に向けて、目標を立てることや長期的に考える意識が芽生えました。

(2) 成果

- ・今回の講演ではボーイスカウト入団経験者に講師を依頼した。自身の体験談を交えながら、普段の活動がどのように社会で役に立つのかをお話いただいた。
- ・講師は参加者と対話をするなど、距離を縮めながら進行していただくことができた。
- ・講師の講演は適切で、参加者からの満足度も高かった。
- ・質疑応答では多くの質問がでており、様々な情報や意見交換の場となった。

(3) 課題

- ・ボランティア活動の魅力等を未経験者もアプローチすることで、事業規模の拡大も狙いたい。
- ・プログラム内容にボランティア体験の場を提供、もしくは他の事業と複合して実施するなど参加者にとってより魅力ある企画をしていきたい。

6 事業の様子



オープニングセレモニー



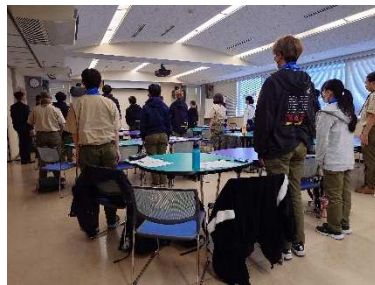
自己紹介



講演



質疑応答



クロージングセレモニー



アンケート記入

担当 町田 友佳

「青少年団体活動支援事業」 (ボランティアのつどい)

1 事業目標

VYS活動やボランティアに興味を持つ一般青少年を対象とした「ボランティアのつどい」を開催し、本会の活動を周知する。また、実践的活動として地域の小学生に対して「チームで競え！手作りゲームセンター～VYSと遊ぼう！～」を行うことで、VYS活動をより具体的に体験する機会を設け、活動の楽しさや充実感などを体感し、今後継続してVYS活動やボランティアを行う意欲を高めることを目指す。

同時に、地域の小学生の体験的活動の場となるように、青少年をはじめ、他校、異学年の児童との関わりが持てるブースを展開する。

会員においては、VYS活動を紹介することを通して普段の活動を見つめ直し、活動に対する理解を深め、活動の拡充を意識する機会とする。

2 事業概要

(1) 期日：令和8年3月7日（土）

(2) 参加対象及び募集人数：高校生以上のボランティア 20名程度・小学1～3年生 60名程度

(3) 参加状況

ア 参加者合計 17名、 申込人数 21名（キャンセル4名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
合 計					16	1		17

イ スタッフ ・運営スタッフ（群馬VYS連絡協議会） 6名

・イベントに来場した小学生（1～3年生） 70名

3 事業実施のポイント

- ① プログラムのテーマを手作りゲームセンターと定め、児童を6班に編制した。班付きのスタッフは配置せず、子どもたちだけでブースをまわった。
- ② 各会場に案内板を設置、またボランティアが案内する形をとり、円滑にプログラムを進行できるよう工夫した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
3月 7日 (土)	開会式 アイスブレイク 午後のイベントに向けた 準備活動	「VYSと遊ぼう！」開催 閉会式 ふりかえり・アンケート記入	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

【参加者】

1. アイスブレイク(仲間づくりのゲーム)について

[とてもよくできた 76% よくできた 24%] ・まわりと良く声かけしながら活動できた。

2. 小学生との交流について

[とてもよくできた 65% よくできた 29% あまりできなかった]

・たくさん話せた。 ・みんな仲良く声かけしながらできた。

3. イベント活動（準備～開催）について [とてもよくできた 88% よくできた 12%]
 ・準備も本番もボランティアする側も楽しくていい経験になった。

【小学生】

1. お兄さん、お姉さんと色々なゲームを体験できたか
 [とてもよくできた 92% まあまあできた 8%]
2. 小学生・お兄さん・お姉さんと仲良く過ごせたか
 [とてもよくできた 80% まあまあできた 20%]
3. また参加したいと思うか
 [とても参加したい 80% ちょっと参加したい 19% あまり参加したくない 2%]
 ・いろいろな体験ができてうれしかった。
 ・また遊びたい。
 ・少し緊張したけど、お兄さんお姉さんが優しくったから安心した。

(2) 成果

- ・2月実施のリハーサルも6名程参加しており、当日も準備から片付けまで参加者が主体的に活動している様子が見られ、ボランティア体験のよい場となった。
- ・児童へのチラシ配布の地域を広げたところ、想定数を上回る応募があった。事業名の工夫もあり、事業の趣旨がより伝わるものとなった。
- ・順位順に参加賞を渡したり、缶バッジを配布するなど、児童への満足度を向上させる工夫や配慮がされていた。

(3) 課題

- ・ボランティアの人数が当日のキャンセルもあったことで少なくなり、設営に想定以上の時間がかかってしまった。ブースの運営にも余裕がなくなってしまった。
- ・群馬 VYS 連絡協議会の団体紹介チラシを配布したが、具体的に口答で結成目的や活動内容等を紹介する時間が十分にとれなかった。

6 事業の様子



準備活動



アイスブレイク



もぐらたたき



UFO キャッチャー



バスケットボールゲーム



うちわホッケー



ワニワニパニック



ボールクエスト

担当 齋藤 唯

「地域団体応援事業(親子で楽しむ性教育フェスタ)」

1 事業目標

県内で活躍する団体や活動場所を探している団体等にアプローチし、関係者と対話しながらニーズを掘り下げ、青少年会館を拠点とした集いや活動を提案する。また、協働でプログラムを実施する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年9月23日(火)
 (2) 参加対象及び募集人数：県内在住親子(募集人数制限なし)
 (3) 参加状況

ア 参加者合計名

内 訳	未就学児 ～小学生	中学生	高校生	専門短大大学生	社会人 保護者	総計
合 計	387	16	4	2	404	813

イ スタッフ ・ボランティア6名(高校生)

・講師4名 ・その他190名(体験ブーススタッフ)

ウ 延べ参加人数(参加者×日数) 1013名×1日=1013名

3 事業実施のポイント

- ① 団体(性教育推進プロジェクト)が、一昨年度の課題として挙げていた広い会場確保の対策として、青少年会館1階・2階の全ての部屋を講演・各ブースの会場として使用した。
- ② 講演会の収容人数を多くするため、大会議室に椅子を並べ、前方にシートを敷いた。
- ③ キッチンカーを玄関前に出店させたり、プレイホールを飲食ブースとして開放したりするなど、午前・午後を含めて1日参加できるようにした。
- ④ チラシ配布枚数を増やす・ラジオ放送なども行い、広報活動を広範囲に展開した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
9月 23日 (火)	○性教育講座 ・性教育は生教育ー家庭からのアプローチ ・学校では教えてくれないカラダとイノチのお話 ○体験・ワークショップ ・妊婦体験 ・夫婦関係コーチング ・生理ナプキン吸水実験 ・ビューティハンドケア ・赤ちゃん抱っこ・子宮内体験 ・感染症対策手洗チェッカー体験 ・性教育絵本読み聞かせ ・性教育かるた・カード遊び ・バルーンアート・缶バッジプレゼントなど	○性教育講座 ・性教育×ネットトラブー自分を守るネットのトリセツ ・いろいろな性ーLGBTQ ってなんだろうー ○体験・ワークショップ ・妊婦体験 ・夫婦関係コーチング ・生理ナプキン吸水実験 ・ビューティハンドケア ・赤ちゃん抱っこ・子宮内体験 ・感染症対策手洗チェッカー体験 ・性教育絵本読み聞かせ ・性教育かるた・カード遊び ・バルーンアート・缶バッジプレゼントなど	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ・大満足 58.4%、満足 34.4%、計 92.8%と、参加者が満足のいくイベントとなった。
- ・とても楽しかったです。来年度も参加したいです。
- ・初めて参加しましたが、子どもたちも興味を持ってくれてよかったです。
- ・家でなかなか性教育をする機会がないため、このようなイベントがあるとありがたいです。また参加したいです。
- ・本来であれば全て参加したい魅力的なものばかりでした。室内イベント、規模感、広々とした飲食ブースの確保、キッズスペースや子どもの遊べる空間、親にとっても学べる講義、またそのサポートとして子どもを預かってくれるサポーターさん、ハイハイの子どもから小学生、大人まで楽しく過ごせて満足のいくイベントでした。家族みんな次も行きたい！と、今年一番のイベントとなりました。キッチンカーも食材選びから健康を気遣っているこだわりの方々の参加で感激しました。
- ・ボランティアの数の多さにビックリしました。老若男女色々な方がボランティアにいて、素晴らしいと感じました。出店者さんも性教育に特化していて、このようなつながり方もあるんだなと思いました。アナウンスの仕方も素敵でした。バルーンは子どもさん達、目を輝かせていましたね。3回目の開催で、ここまでの来場者がみえるのは素晴らしい。どんな形にしても、まずは知ってもらうことが大切だと思いますので、これから性教育の言葉が群馬県で広がっていくことを願っています。

(2) 成果

- ・来場者数は、前回は大きく上回る数となった(456→813)
- ・体験ブースやワークショップ会場の広さを確保したことや、飲食ブースをプレイホールに設けたことで、来場者が伸び伸びと余裕を持ってフェスタを楽しむことが出来た。
- ・大イベントになったが、大きな事故やけが人もなく安全に実施できてよかった。

(3) 課題

- ・スタッフ同士の連絡体勢が不十分であり、組織の再構築が必要である。
- ・緊急事態への対応マニュアルを作成する。
- ・主催者と会館側の担当分担を事前にしっかり確認する。
- ・このイベントが1,000人規模となり、緊急時の放送を事務室にてできるようにすることは喫緊の課題であると思う。

6 事業の様子



性教育絵本読み聞かせ



昼食風景



大人向け性教育講座



スタンプラリー達成缶バッジづくり



親子向け性教育連座



性教育カルタ

担当 小林 高義

「地域団体応援事業(NPO x YOUTHスポフェス2025)」

1 事業目標

本事業は、群馬県内でボランティアや社会貢献活動をしていたり、興味を持っている高校生から20代の若者を対象に、スポーツを通じた交流や次の一歩を踏み出す交流集会とすることを目的として実施した。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年11月24日（月）
 (2) 参加対象及び募集人数：県内在住・在学・在勤の高校生～20代
 (3) 参加状況

ア 参加者合計29名

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人・ 保護者	総計
参加者数					29			29

イ スタッフ・ボランティア10名

ウ 延べ参加人数（参加者×日数）39名×1日＝39名

3 事業実施のポイント

- ①運営を高校生や大学生が企画する。
 ②できる限りスタッフは、高校生大学生が主体となるよう支援する
 ③群馬県青少年会館は、この地域団体を応援するスタンスで支援をする。

4 日程

日時	午 前	午 後
11月 24日 (月)	10時 実行委員集合 会場準備 11時～12時 リハーサル	13時～13時15分 開会式 13時15分～13時35分 交流企画① ITO 13時35分～15時35分 障害物リレー・ドッジビー・お邪魔玉入れ・風船バレー 15時35分～15時45分 表彰式 15時45分～16時30分 片付け・清掃 16時30分～16時55分 振り返り・最終チェック・解散

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ・当日は29名が参加し、高校生・大学生を中心に、多様な立場の若者が集まった。
- ・競技は4チームに分かれて行い、実行委員会が中心となって企画・運営を行った。
- ・競技前にはアイスブレイクを実施し、初対面同士でも自然に会話が生まれるなど、交流しやすい雰囲気づくりにつながった。
- ・競技の一つである「ふうせんバレー」は、第一学院高等学校のPBL授業の一環として、生徒が企画から運営までを担ったもので、学校を越えた実践的な学びの機会となり、参加者からも好評であった。

(2) 成果

- ・参加者アンケート(回答数22)では、「とても楽しかった」と回答した参加者が多数を占めた。
- ・来年も参加したいと回答した人は19名にのぼり、イベントへの満足度の高さがうかがえた。
- ・イベント参加を通じてボランティアやNPOへの関心が高まったと回答した参加者は21名となり、若者の社会参画への意識喚起という点で一定の成果が確認できた。

(3) 課題

- ・実行委員会運営においては、特定のメンバーへの負担が大きくなったことや、広報活動、とくにSNS発信が十分に行えなかった点などの課題も明らかになった。
- ・高校生や大学生たちが参加するイベントだったこともあり、開催時期や交通アクセスについても、今後の検討課題として挙げられた。
- ・初開催で試行錯誤の多いイベントではあったが、当日は参加者同士が主体的に関わり合い、学校や団体を越えた交流が見られたので、若者同士の関係づくりにおける一つの試みとして、今回の経験を今後の事業検討に生かしていきたい。

6 事業の様子



担当 小林 高義

(5) 情報収集・情報提供システム事業

「ぐんま青少年ねっと」

1 事業目標

ホームページ・ブログ・SNS により青少年会館及び、青少年健全育成事業の情報を発信し周知を図る。また、学習コーナーの利用者がインターネットを利用できる機器を貸し出し、青少年の学習や情報収集を支援する。

2 事業概要

(1) 期日：通年

(2) 参加対象及び募集人数：青少年、青少年指導者及び地域住民

(3) 利用状況

学習情報コーナー利用者 466 名

R8.3.31 時点

内 訳	幼稚・ 保育園	小学生	中学生	高校生	大学・ 高専生	その他 学生	勤労青 少年	指導者		総計
参加者数		11	262	78	48	5	62			466

3 事業実施のポイント

- ① 群馬県青少年会館ホームページの日常管理
施設利用案内や主催事業等の最新情報の掲載（更新）作業を行った。（合計 61 回）
- ② 群馬県青少年会館ブログ・Twitter（現 X）・Instagram の記事投稿
ブログ・Twitter（現 X）・Instagram を並行して運用し、主催事業・施設利用・館内の様子などについて情報発信した。更新回数は合計で 345 回と、前年度（320 回）を更に上回った。
- ③ 学習情報コーナーの運営
今年度から 2 階多目的学習室前に学習・ワークスペースを増設した。より広く活用してもらえるように、周知のためのチラシの作成や、SNS による利用時間の案内等を行い、更なる利用促進に努めた。
- ④ 会館における青少年関係情報提供システムの運用
情報機器の管理及び館内システムの保守等について、委託業者を通して行った。
- ⑤ 1 階ロビーでの Wi-Fi 環境提供
引き続き 1 階ロビーでのフリー Wi-Fi 環境を提供し、共用スペースでの PC、スマートフォン利用の利便性を維持した。

4 事業評価

(1) 参加者の満足度

・当会館ホームページの閲覧による施設利用や主催事業に関する問い合わせが多く、インターネット活用の効果を感じられる。施設案内や事業内容などを明確に伝えているため、対象者にとって有益な情報として活用されている。

(2) 成果

・学習情報コーナーの利用は 466 名と、昨年（95 名）を大きく上回った。
・google アナリティクスによるユーザー数、ページビュー数、organic search 等の数値が全体的に昨年度よりも底上げされていることから、会館の認知度については高められていると考えられる。
・昨年と比較し、ボランティア募集が検索上位ページとなった月や、前橋市内の自習室を検索してアクセスされた月が多く見られた。今後もこういったニーズを収集することは、施策を検討する際の一助になると考えられる。

(3) 課題

- ・情報提供システム運用に関する費用は、近年の物価高騰の影響を顕著に受けている。そのため、従来通りに予算内で情報機器の新規導入や入れ替えを行うことが、次第に難しくなってくる事が予想される。本来であれば、職員用パソコン等は指定管理期間毎に全てを入れ替えたところではあるが、中古パソコンを活用している。また、共用していたノートパソコンを職員用の個人パソコンとして流用する等の措置を行っている状況である。今後のオペレーティングシステムのサポート終了等による機器入れ替えの際、如何に柔軟に対応できるかが課題となる。

5 事業の様子



ホームページ



ブログ



Twitter(現 X)



Instagram

担当 小林 俊輔

「青少年活動事例調査」

1 事業目標

青少年会館の運営や主催事業の参考となる公共施設、及び青少年対象のプログラム等について情報収集する。また、社会教育関係者や青少年団体、地域団体が実施・参加する事業や研修等に職員が赴き、関係者と情報交換を行うとともに、団体や社会教育関係者との今後の業務に向けた連携・協働関係を築く。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年4月1日～令和8年3月31日
- (2) 対象：青少年施設の施設運営、プログラム、NPO法人等の活動、青少年団体指導者、市町村で実施される事業等
- (3) 調査状況

調査日	施設、団体名、イベント名等	目的
10月28日	① 前橋自動車教習所	・次年度の企業コラボ事業における連携・協働の可否についての判断材料を得るための情報収集を行う。 ・体験活動の内容、対象、年齢、実施可能時期等についての聞き取りを行う。
10月31日 ～ 11月1日	② 全国青年会館協議会理事長会 (日本青年会館ホテル)	・講演「新たな公益法人会計の概要と法人としての対応」を受講し、新会計基準について説明を受ける。 ・各県に設置されている青年会館との情報交換を行い、参考になることを取り入れながら会館運営や事業実施を行う。(岩手県・宮城県・福井県・愛知県・岡山県・防長・香川県・佐賀県・鹿児島県・日本青年館の計10施設)
2月25日	③ TUMO Gunma (Gメッセ群馬4F)	・施設見学を行い、施設のレイアウトや設置備品等、参考にする。 ・事業内容についての説明を受け、指定管理事業をはじめ、自主事業や受託事業等、次年度の事業実施の参考にする。
2月26日	④ 前橋中央公民館(元気21)	・「体験の風をおこそう」実行委員会参加時に施設見学を行い、施設管理や事業等の参考にする。
3月14日	⑤ カインズ青柳店	・次年度実施予定の「青少年会館フェスティバル」に向けて、カインズ青柳店で実施している「くみまちパンマルシェ」の視察を行う。

(4) その他

資料収集 県立青少年施設要覧、行事カレンダー、広報紙、事業チラシ等
 専門誌購読 一般財団法人日本青年館発行「社会教育」(月刊誌)

3 事業実施のポイント

- ① 企業と連携、協働で行う事業についての情報収集を行った。該当企業の活動状況を見きし、子どもたちや保護者にとって興味・関心のある活動が提供できることを確認する。
- ② 3年間の移行期間がある区分経理等について、対応と準備を行う。
各県に設置されている青年会館との情報交換を行い、管理運営や事業実施上での課題や工夫・改善等の情報収集を行う。
- ③ アジア初のTUMO Gunma（ツーモグンマ）が、昨年夏にGメッセ群馬4階にオープンした。世界標準のデジタルクリエイティブに関するスキルを学ぶことができる会場見学やプログラム説明を受け、指定管理事業をはじめ、自主事業や受託事業等、次年度の事業実施の参考にする。
- ④ 前橋中央公民館5階の学習室や展示スペース等を見学して、管理運営や事業実施等の参考にする。
- ⑤ 青少年会館フェスティバルで「パンマルシェ」開催が可能かどうか、開催日に合わせてカインズ青柳店を視察する。

4 事業評価

（1）成果

- ・自転車シミュレータや車両の死角・内輪差の危険性等について、体験できるプログラムの提供を受けた。実施時期や対象学年、子どもだけの参加か親子の参加か、高校生ボランティアの募集をするかしないか等、次回の打合せで確認することとした。
- ・3年間の移行期間がある区分経理等については、講演で使用した資料等を関係職員に伝達することができた。また、各県青年会館等の情報交換では、県との連携の重要性や青年層を取り込んでの事業実施等、どの施設も長年培ってきた関係の重要性を実感した。
- ・開放的なスペースや興味・関心を引くような工夫等、管理・運営上の参考となる部分が多くあった。プログラムや学習者の様子から、代表者を次年度のG-SKYPlanコーディネーター会議での研修講師としてお招きしたい。
- ・中央公民館では、書道や絵画の展示、パソコン教室や麻雀教室等3つのサークルが学習室を利用しており、平日でも利用者が多いことが分かった。ただし、利用者の年齢層は高い。
- ・「くみまちパンマルシェ」の参加店舗は10店舗で、集客も多く感じた。各店舗ともパンを搬入するのみで販売はカインズ店員であった。このパンマルシェは、前橋市包括連携事業であるため、担当である前橋市福祉部障害福祉課障害政策係に問い合わせ、青少年会館フェスティバルの出店が可能かどうか確認したい。

（2）課題

- ・何を目的にどんな調査を実施するか、年度当初に計画を立てての実施ができなかった。そのため、焦点化した事例調査にならなかった。
- ・来年度は、①企業コラボ実施に向けた情報収集 ②ダブルダッチ終了後の新規事業に向けた情報収集 ③職員のスキルアップに向けた情報収集(飾り付け・アイスブレイク)を行っていきたいと考える。

担当 金子 勉

(1) 青少年活動支援事業

「青少年会館友の会事業」

1 事業目標

群馬県青少年会館で活動するボランティア団体「青少年会館友の会」と連携し、青少年の健全育成活動を共催・協働で実施する。また、会員に青少年会館の各事業への参画やボランティア実践の機会を提供する。

2 事業概要

(1) 期日：令和7年4月～令和8年3月

(2) 参加対象及び募集人数：①アドバンスユニット 大学生44名、社会人1名
②指導者養成ユニット 社会人6名

(3) 参加状況

① 指導者養成ユニット「しあわせってなかに～戦後80年経った今～」

ア 参加者合計23名（社会人・保護者・未就学児）、申込人数28名（キャンセル5名）

イ スタッフ・ボランティア 11名

② アドバンスユニット「ゆめすくーる」

ア 参加合計 200名、申込人数97名（キャンセル16名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数 10/26		37	29					66
参加者数 11/16		36	30					66
参加者数 12/14		38	30					68

イ スタッフ・ボランティア 45名

ウ 延べ参加人数（全3回） 参加者200名、友の会会員89名

③ 指導者養成ユニット「おやこでクリスマスリースづくり」

ア 参加者合計23名（小学生12名・保護者11名）、申込人数23名（キャンセル0名）

※家族11世帯

イ スタッフ・ボランティア 7名

④ 指導者養成ユニット「おやこでしめ縄づくり」

ア 参加者合計22名（小学生11名・保護者11名）、申込人数109名（キャンセル8名）

※家族11世帯

イ スタッフ 4名

3 事業実施のポイント

- ① 指導者養成ユニット「しあわせってなかに～戦後80年経った今～」
読み語り芝居の鑑賞後、参加者同士で交流できるようグループワークを実施した。
- ② アドバンスユニット「ゆめすくーる」
学生会員がプログラムの企画を行った。実施に向けて関係者間でミーティングを重ねた。
- ③ 指導者養成ユニット「おやこでクリスマスリースづくり」
対象者を小学生の親子に変更し、親子間での活動・交流を深められるプログラムに設定した。
- ④ 指導者養成ユニット「おやこでしめ縄づくり」
複数の班を編成し、親子間や参加者同士での交流の場を提供した。
- ⑤ 指導者養成ユニット イベントへの運営協力
「ふれあい・ゆうあい交流フェスタ」等でバルーンアートづくり及び指導を行った。

4 日程

日時	会議等	午前	午後
7月6日(日)	「ゆめすくーる mini」	中高生ボランティアの指導	イベント運営
9月7日(日)	「しあわせってなあに」	読み語り芝居の鑑賞	
9月27日(土)	アドバンスユニット会議		リハーサル等
10月18日(土)	「交流フェスタ準備」		バルーン飾り付け等
10月26日(日)	「ゆめすくーる」①	A 世界のことを学ぼう B レクリエーション・工作 C パソコンの正しい使い方	午前と同様
11月15日(土)	「リースづくり」	リース作り	
11月16日(日)	「ゆめすくーる」②	第1回と同様	午前と同様
12月14日(日)	「ゆめすくーる」③	第1回と同様	午前と同様
12月20日(土)	「しめ縄づくり」	しめ縄づくり	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ①「しあわせってなあに～戦後 80 年経った今～」
 - ・ご飯を食べられることや日常の些細なことに感謝をして生活していきたい。
- ②「ゆめすくーる」
 - ・また一緒にたくさん遊びたいです。また会いたいです。
- ③「おやこでクリスマスリースづくり」
 - ・できあがりに大満足で母子で素敵な作品ができとても嬉しく思います。一生の思い出です。
- ④「おやこでしめ縄づくり」
 - ・藁を捻ってしめるのが難しかったけど、自分の納得するしめ縄ができて良かった。

(2) 成果

- ・指導者養成ユニットは、親子を対象とした事業を2つ実施することができた。
- ・アドバンスユニットは、ゆめすくーる mini の講師として中学生・高校生への指導・イベントの運営をしていただいた。今後の活動（ゆめすくーる）に向けた練習・指導者養成の場にもなっている。

(3) 課題

- ・「しあわせってなあに」では参加者の定員が満たなかった。募集時期が夏期休業期間と被り、十分に周知できなかったこと、内容の難しさが原因と思われる。開催時期の見直しとニーズにあったプログラムの提供を心がけたい。

6 事業の様子



読み語り芝居の鑑賞



ゆめすくーる



しめ縄づくり

担当 町田 友佳

(2) 地域連携協力事業

「地域連携協力事業」

1 事業目標

市町村や県内団体及び学校等の要望に応じて、関係者と連携を図り、協働したプログラムを実施する。

2 事業概要

(1) 期日：令和7年4月～令和8年3月

(2) 対応状況

対応件数 6件

内 訳		小学校	中学校	高校	大学	団体	施設	その他	総計
合 計		1		2	1	1	1		6

3 事業実施のポイント

- ① 小学生の施設見学や高校生・大学生のインターンシップや研修等では事前に学校の担当者と協議を重ね、有意義なプログラムを提供した。
- ② ライオンズクエストワークショップは、地区ごとの小中学校のスケジュールを予め確認した上で日程を協議し、教職員が参加しやすい開催日を設定した。
- ③ 他施設との連携では、館外でのイベント等に積極的に参加し、事業団のPRに努めた。

4 日程

日程	プログラム名	内容	連携・共催団体等
5月27日 (火)	町たんけん（小学校2年生の施設見学）	館内案内、プログラム案内等	前橋市立荒牧小学校
10月26日 (日)	体験の風をおこそう運動	令和7年度あかぎフェスタ	国立赤城青少年の交流の家
1月24日 (土)		みんなのクラフトひろば	
2月8日 (日)		令和7年度子ども体験ワークショップ	
8月1日 (金)	第1回ライオンズクエスト・薬物乱用防止委員会	事前打合せ①	ライオンズクラブ国際協会 333-D 地区
11月7日 (金)	第2回ライオンズクエスト・薬物乱用防止委員会	事前打合せ②	
12月26日 (金)	ライオンズクエストワークショップ	ライフスキル教育の理解と演習	
10月8日 (水)～ 10日(金)	高校生短期インターンシップ受け入れ	施設見学及び青少年育成事業団の業務説明と体験	県立高崎女子高等学校
10月21日 (火)～ 24日(金)		施設見学及び青少年育成事業団の業務説明と体験	県立前橋商業高等学校
12月14日 (日)		社会教育実践研修Ⅱ受け入れ	群馬大学共同教育学部
		青少年会館の役割と職員の業務に係る説明、青少年育成事業に関する講義及び館内見学、事業見学等	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

◆高校生インターンシップ

- ・学校からボランティア募集が来る時によく青少年会館を目にし、どんなことを行っているのか興味を持った。事業について詳しく内容を知ることができ、とても勉強になった。沢山の活動を支え、沢山の人の役に立っている大事なことなのだと感じた。
- ・将来なりたい職業に近かったため興味を持った。青少年会館に来た事はなかったが、ふれあいゆうあい交流フェスタなどは知っていたので、次はボランティアとして参加したい。また、G-SKYPlan とステップアップについての説明を受けて、とても興味が湧いた。周囲の人に教えてあげたいと思った。

(2) 成果

◆体験の風をおこそう運動

- ・ひのきの箸づくりで体験ブースを出展した。普段の生活で使うことがない道具（カンナ）を用いた製作体験を提供できた。また、他の施設や団体の体験プログラムを見る機会になった。

◆ライオンズクエストワークショップ

- ・教員や企業経営者等の参加者が、学校の授業において人間形成に必要な学力以外の学びや体験をどのように取り入れたらよいか意見交換できた。また、模擬授業の立案と発表で具体的な手法を体験してもらうことができた。

◆社会教育施設の現場学習（群馬大学「社会教育実践研修Ⅱ」）

- ・教職員を目指す大学生に社会教育や青少年健全育成事業の具体例を示し、理解してもらえた。

(3) 課題

- ・ライオンズクエストワークショップは、共催者側の都合により例年冬季の開催となっているが、夏季に開催出来ればより多くの参加が見込める。プログラムの内容的にも人数が多い方が有意義なワークショップとなるため、引き続き共催者と検討していきたい。

6 事業の様子



町たんけん①



ライオンズクエストワークショップ①



高校生インターンシップ①



町たんけん②



ライオンズクエストワークショップ②



高校生インターンシップ②

担当 小林 俊輔

「地域連携協力事業 ジンズパークイベント」 (青少年会館のみんなと遊ぼう 2025)

1 事業目標

群馬県青少年会館と群馬県青少年団体連絡協議会による体験 活動のブース出展を行い、青少年に体験活動の機会を提供する。
また、これまで青少年会館を利用したことのない方に向けて、青少年団体と青少年会館の広報機会とする。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年9月6日（土）
(2) 会場：ジンズパーク（前橋市川原町 1-21-9）
(3) 参加対象及び募集人数：小学生、高校生ボランティア 10 名程度
(4) 参加状況

ア 参加者合計 216 名

内 訳	未就学児	小学生 1～3 年	小学生 4～6 年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		98	20				98	216

イ スタッフ ・群馬県青少年施設連絡協議会 16 名、ボルダリングスタッフ 1 名
・ジンズスタッフ 1 名
・高校生ボランティア 9 名

3 事業実施のポイント

- ① 地域の団体（企業）の要請に応じ、協働で事業実施を行う。
② 群馬県青少年団体連絡協議会と連携し、高校生ボランティアにも協力してもらい県内の小学生に向けて体験活動を提供する。
③ 会館に来館する方とは違う方々に、各青少年団体、青少年会館の広報を行う場とする。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
9 月 6 日 (土)	・会場準備、打合せ ・高校生ボランティアへの活動における注意点等の指導、会場準備 ・ブース展開開始	・ブース展開 ・全体での閉会行事	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度（事業参加者の感想等について）

- 1 小学生
・参加者からは、各ブースにて楽しく体験できたという声をスタッフ、高校生ボランティアがいただくことができた。
2 高校生ボランティア
ア 子どもたちとの交流
よくできた 67%、できた 33%と多くの参加者が子どもたちと一緒に活動できたと回答

している。

イ その他の感想など

- ・子どもたちとたくさん関わって楽しかった、大変そうに見えたけどやってみたら楽しかったなどの好意的な意見が多くみられた。

3 群馬県青少年施設連絡協議会スタッフ

- ・「子どもたち、高校生ボランティアと関わることでよかった」「各団体間のブースが近かったことにより、普段の活動よりも交流を図ることができた」「涼しい室内で一人一人とゆっくり交流できた」「幼い子や男女関わらず、一緒にクラフトを楽しめた」等の交流についても充実した活動となった意見が多かった。
- ・広報について、PR 出来たという意見とあまり PR を行うことができなかったという意見があった。

(2) 成果

- ・短い準備時間（1ヶ月程度）の中で協力団体である群馬県青少年団体連絡協議会と調整を行い、各ブース出展をしていただき、事業を実施することができた。
- ・高校生ボランティアにも協力してもらい、参加者からは充実した活動ができたという意見をいただいた。
- ・地域の要請に応じて、事業実施しながら普段会館を利用していない方に青少年団体と青少年会館のPRを行うことができた。

(3) 課題

- ・企業の方から要請を受けてから実施までの期間が短く、準備に時間がかけられなかった。来年度については内容の検討も含めて、計画的に準備、実施をしたい。
- ・広報の部分については、子どもたちの体験が主となるため、どのように団体活動等を広報するか、ある程度の工夫が必要になると感じる。

6 事業の様子



会場準備



高校生ボランティアへの指導



ボルダリング体験



室内ブース（ロープワーク、アルミたまご、バルーン、缶バッジ）



射的ブース



バルーンアート体験

担当 井口 堅太郎

(3) 広報事業

「新年交歓会」

1 事業目標

青少年教育行政関係者や青少年団体関係者等が一堂に会し、青少年健全育成について情報交換を行うとともに、群馬県青少年会館及び公益財団法人群馬県青少年育成事業団の諸事業を広報し、その理解促進を図る。

2 事業概要

(1) 期日：令和8年1月17日（土）

(2) 参加対象及び募集人数：青少年行政関係者・青少年団体関係者等 50名程度

(3) 参加状況

ア 参加者合計 47名、 申込人数 47名（キャンセル 0名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数							47	47

イ 出演者等 ステージ出演者・関係者 31名

ウ 延べ参加人数（参加者×日数）47名 × 1日 = 47名

3 事業実施のポイント

- ① オープニングセレモニーのステージ出演団体は、青少年会館の施設利用団体の安中総合学園高校ダンス部に依頼した。
- ② 各青少年団体の広報等を配布し、出席者に団体の活動を周知した。
- ③ 当事業団の社会教育事業についての理解を図るため、開式前のオープニングムービー（スライド）で主催事業の内容を投影した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
1月 17日 (土)	オープニングムービー オープニングセレモニー (ダンスパフォーマンス) 開会 理事長あいさつ 祝辞 来賓紹介 表彰・感謝状贈呈 乾杯 歓談 しめ 閉会		

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ・ステージ出演団体は、出席者が明るく前向きな気持ちになれるよう、新春にふさわしいダンスパフォーマンスを披露した。
- ・コロナ禍後、はじめて会食を伴う会とし、リラックスした様子で和気あいあいと歓談・交流ができた。

(2) 成果

- ・参加費を低額に抑え、短時間のプログラムを構築したため、気軽に参加することができた。
- ・歓談の時間を多く設けたため、多くの方がゆっくりと会話でき、交流の輪を広げることができた。
- ・当事業団の関係者が一同に会し、親睦を深めることにより、各種事業の広報と関係機関との連携強化、施設の一層の利用促進が図れた。

(3) 課題

好評を得たプログラムは継続しつつ、演目のマンネリ化を防ぐ必要がある。交歓会であるため、プログラムを通して交流を深められるよう工夫したい。

6 事業の様子



ダンスパフォーマンス



来賓祝辞



歓談の様子

担当 高橋 弘幸

(4)補助事業

「団体補助」

1 事業目標

団体の活性化を図るために、会館に事務局を置く 5 団体へ補助金を交付する。 (4 万円×5 団体)
--

2 事業概要

青少年団体が安定した事務局運営ができるよう、会館に事務局を構える 5 団体（群馬県青少年団体連絡協議会、日本ボーイスカウト群馬県連盟、一般社団法人ガールスカウト群馬県連盟、公益社団法人群馬県子ども会育成連合会、群馬県青年団連合会）に対して、1 団体あたり 4 万円の補助金（青少年団体育成費）を交付した。

担当 井口 堅太郎

「青少年自立・再学習支援事業（G-SKY Plan）」

1 事業目標

不登校、非行、ひきこもり、ニートなどの様々な悩みを抱えている青少年のために、相談活動や体験活動をととして立ち直りを支援する。また、再び勉強をしたいという青少年のために、各種情報や勉強場所の提供や学習相談も行う。

2 事業概要

(1) 期日：通年

(2) 参加対象者及び募集人数：中学生・高校生・概ね20歳未満の若者及びその保護者・関係者

(3) 参加状況

ア 参加者合計

月別状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談申込者数	3	5	2	2	1	5	6	1	1	1	0	0	27
相談実施数（面接、電話、メール等）	19	27	76	27	19	64	97	82	64	24	56	5	560
進路相談会					29		29						58
体験活動申込み人数			1	0	0	0	5	3	3	0	2		14
（内 申し込み人数新規）			1	0	0	0	5	3	2	0	2		13
体験活動実施件数			1	0	0	0	4	3	3	0	1		12

※1 当該月の新規相談対象生徒数

※2 相談実施数は、対象生徒・保護者・教員等からの延べ相談数

※3 体験活動申込みは、実人数

イ スタッフ ・体験活動コーディネーター（CN） 6名

・事業コーディネーター（会館職員） 2名

3 事業実施のポイント

◎悩みを抱える青少年の心をほぐし、自己肯定感や自信を高め、立ち直りを支援する。

① 体験活動の充実

- ・CN、事務局が参加する事前の相談で本人の希望にあった事業所等の紹介
- ・CNによる体験活動実施前の本人・学校・事業所との連携の潤滑化

② 再学習支援の充実

- ・学習方法の相談、進路情報の提供
- ・進路相談会での配布資料の充実及び事前予約による面談

4 日程

○ 合同会議

第1回 4/11(金) 10:00～12:00 委嘱状交付、令和7年度青少年自立・再学習支援事業について
令和6年度活動状況報告等

第2回 7/9(木) 10:00～12:00 CN対象研修会、活動状況報告、事例報告、進路相談会について

第3回 12/5(金) 10:00～12:00 活動状況報告、事例報告、進路相談会のまとめ等

第4回 3/4(木) 実施予定

○ 進路相談会

第1回 8/23(土) 13:00～16:00 場所：群馬県青少年会館

第2回 10/25(土) 13:00～16:00 場所：群馬県青少年会館

事前予約で希望のあった人を対象に、CN、ステップアップ学習相談員、前橋清陵高校、太田フレックス高校、高崎高校通信制、桐生高校通信制、クラーク記念国際高校、わせがく高校、第一学院高校、おおぞら高校、NHK学園高校、白根開善学校がブースで対応した。参加者には通信制高校やサポート校等の資料を配布した。

5 事業評価

① 参加者の満足度（アンケート結果及び活動状況所見）

◎ 体験活動

- ・スーパーの裏方を9日間やらせていただいた。野菜の袋詰めやラベル貼り等頑張った。職員の方々も優しくし困ったときに助けていただき本当に仲良くなることができました。膝が痛くなったときも心配してくれて、本当に申し訳ありませんでした。協力していただいたかたがたに感謝しています。また機会があればよろしくお願いします。
- ・人とのコミュニケーションがやりやすくなりました。
- ・自分の意思でチャレンジできました。1日目で、普段使わないところが、筋肉痛になりました。自然や馬、ポニーちゃんに癒やされました。

◎ 再学習支援

○進路相談会

- ・すごく良い機会になりました。高校進学、学習面、不登校であることから先が見えずどう進めるべきかわからなかったのですが、通信制の理解につながったこと、第三機関を頼ること

の心強さを実感できました。今日はとても貴重な良い時間となりました。ありがとうございました。

- ・初めて参加してもらいました。進学のことも含め、今の子の状況を客観的にご意見いただき、子どもとこれからの事を話していこうと思います。
- ・個別ブースであり時間予約制でもあり安心できました。実際の相談内容を具体的に伺うことができました。たいへんありがとうございました。
- ・親身に話を聞いてくださり、心が軽くなりました。ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

② 成果

◎体験活動（10月末日まで）

- ・体験活動申込み中学生が7名、家庭の事情で1名実施できなかった。涼しくなるにつれて活動が活発となってきた。事業者は対象生徒に対して、手厚く優しく接してくれている。今まで経験の無い取り組みについて、認められることで、達成感を持つとともに、自分の良さについて再確認をしている。この経験により復学できる場合はほとんどないが、本人の中に生まれた自信が将来の生き方に良い影響を与えている。

◎再学習支援

○進路相談会（全体）

- ・中学生26名・高校生4名・保護者等71名・退学既卒者2名、学校・行政関係4名、関係機関・事業団等48名の計155名の出席があった。
- ・参加者は県内各地から参加し、前橋市24組、伊勢崎市15組、高崎市4組、渋川市4組、太田市3組、沼田市2組、邑楽町2組、玉村町1組、藤岡市1組、安中市1組、桐生市1組、計58組
- ・相談内容は悩みや進路48件、進路や高卒認定138件 計186件。進路決定について参考になる相談が展開された。

③ 課題

◎体験活動

- ・体験活動の広報に課題を感じている。参加状況に偏りがあり、繰り返し活用してくれる学校や活用経験のある先生からの依頼が多い。体験活動による生徒の変化を間近で感じることできた学校や先生から希望者が続くのは、活動に満足していたからとからと考える。このあたりをどう広報していくかが大事と考える。

◎再学習支援

- ・進路相談会への参加者は減少傾向があったが、今年度は2回とも盛況であった。原因としては、前橋市においてはチラシが全家庭に配布されてこと、広報活動時に中学3年に限らず不登校傾向があり、進路に不安にある方は相談してほしい旨を強調したこと、新聞に取り上げてもらったこと等が考えられる。また、進路の多様性（通信制やサポート校）の認知度が増したことが考えられる。

6 事業の様子

①合同会議（第2回・7月）



②進路相談会（第1回・8月）



③体験活動 【スーパー】



④体験活動 【図書館】



⑤体験活動 【農業】



⑥事業所への感謝状贈呈訪問



担当 山口 行輝

「青少年自立・再学習支援事業」
(地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業)

1 事業目標

学力格差の解消及び高等学校中退者等の進学・就労に資するよう、高校中退者等を対象に
 高等学校卒業程度の学力の習得を目指し、学習相談及び学習支援を行う。

2 事業概要

- (1) 期日：令和7年4月1日～令和8年3月14日
 (2) 参加対象及び募集人数：高校中退者・中学校卒業後進路未決定者等
 (3) 今年度事業参加者 39名

① 学習相談

(単位：人) 3月3日現在

月			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
当月新規学習相談者数			14	1	1	8	4	2	4	2	0	1	2	0	39
月支援学習相談者実人数			14	7	7	19	10	12	13	8	5	7	5	3	110
の べ 人 数	電話 メー ル	本人	11	1	5	11	3	9	2	5	4	2	1	0	54
		保護者	11	3	4	12	2	4	4	8	9	6	1	0	64
		その他	0	0	1	1	3	3	1	0	0	0	3	0	12
	面 談	本人	8	2	1	7	11	3	11	3	4	1	2	3	56
		保護者	2	1	0	6	7	1	3	1	0	0	1	2	24
		その他	1	2	2	2	5	5	2	0	0	0	0	0	19

② 学習支援(学習会参加)

(単位：人) 3月3日現在

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	3	1	1	3	2	1	3	2	1	1	1	2	21
のべ人数	4	2	1	6	2	2	7	2	2	1	2	2	33

3 事業実施のポイント

- ① 当事業の開始時に、今年度は昨年度からの継続の5人の大学生（群馬大学共同教育学部4年生2名2年生1名・医学部4年生1名2年生1名）に学習支援員を依頼した。事業内容を理解し、個に応じた支援を展開している。9月初旬、支援員と事務局との相談会を持ち、事業情報の共有化と今後の支援について意見交換を行った。
- ② 支援員の業務日誌を有効に活用し、継続的な支援を心がけた。また、学習会事前事後には支援員と相談員との打合せ報告を短時間に行い、学習相談者への支援の充実に努めた。
- ③ 学習相談員と相談者が連絡を取りやすくするために、当事業専用のスマートフォンを活用した。
- ④ 二人の学習相談員と担当会館職員が学習相談者の情報を共有し、学習相談者への支援が円滑にできるように、相談員の業務日誌・引き継ぎカード・短時間の打ち合わせ・月例のG-SKYとの連携を含めた情報交換会議等を活用した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
4月～3月随時	学習相談	学習相談	
4月～3月主に土日	学習相談	学習会 年間60回開催	
8月末(8月23日)		第1回進路相談会	
10月末(10月25日)		第2回進路相談会	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度 学習相談者のアンケートから抜粋

- ◆Aさんの感想 ・本日は大変よい勉強になり、解説も大事だと言うことが分かりました。
- ◆Cさんの感想 ・次回も参加する予定です。
・支援員さんの教え方がすごく分かりやすくて、因数分解や√の解き方を楽しく学べた。
- ◆Dさんの感想 ・分かりやすかった。
- ◆Eさんの感想 ・科学と人間生活が一番苦手なところだったが、丁寧に教えてくれたので、進みが早かった。・先生(指導員)がいると進みがはやい。自信を持って問題を解ける。

- ◆Fさんの感想 ・親切で優しく、丁寧に教えていただけて、とても嬉しかったです。
- ◆Hさんの感想 ・静かな環境で学習させていただけて、ありがたいです。
・2次関数の単元でつまづいているので、一次関数から丁寧に教えていただけて感謝です。
- ◆Iさんの感想 ・数学で自分の苦手とか、間違えてしまうパターンが分かって良かったです。また参加したいです。

(2) 成果

- ・今年度の学習会参加者は 9人だった。学習相談者への連絡やこれまでと同様 G-SKY の広報時での広報をしたが、なかなか学習会参加者が伸びていない。心身の不調やアルバイト・就業の関係で参加が難しい相談者が多かったのも原因の一つと思われる。その代わり、来館した折には、自学の相談やワーク・問題集などの貸出を行った。
- ・学習会では継続した取り組みとして、距離を保って着席・事後の消毒等、感染対策を十分に図って実施した。面談時・学習支援時は特に留意し、個の特性に配慮しつつ事業運営に支障がないよう留意した。
- ・新規相談者が当事業の情報を入手した経路は、G-SKY Plan や地域の教育支援センター（適応指導教室等）、知人からの紹介、心療内科、高校からの情報があり、今年度もインターネット検索が目立ち、広報活動や地域・団体等との連携成果が現れている。

<第1回高卒認定試験について…3名受験>

- 学習会に参加していた4名の受験結果は次の通りである。
- 2科目受験・2科目不合格…経済的な理由もあり今後は受験しない
- 3科目受験予定だったが、感染症罹患のため受験せず。第2回目に受験
- 4科目受験・3科目合格…不合格だった数学を第2回目に受験する
- 3科目受験・3科目合格…履修単位と併せて全科目合格 → 今後は大学進学を目指す

<第2回高卒認定試験について…6名受験>

- 学習会に参加していた6名の受験結果は次の通りである
- 1科目受験・不合格…R8年度受験
- 3科目受験・確認中
- 3科目受験・3科目合格…履修単位と併せて全科目合格→専門学校進学
- 8科目受験・3科目合格…残り5科目 R8年度受験予定
- 4科目受験・4科目合格・履修単位と併せて全科目合格 → 専門学校進学を目指す
- 3科目受験・2科目合格…残り1科目 R8年度受験予定
- 学習会に参加していない、面談のみの1名の受験結果は次の通りである。
- 4科目受験予定…体調不良のため未受験

以上、令和7年度は、全科目合格者3名 科目合格者2名

- ・当事業の学習者(相談者)は、高卒認定試験後、そのほとんどが大学・専門学校に進学（または進学に向けて学習継続）、仕事に関係した資格取得を予定している。
- ・学習者については、本人の状況を把握し、本人への連絡や情報提供については適切な時期を見計らって実施し、個別支援の充実に努めることができた。

(3) 課題

- ・高校中退者や社会人の中にも、今後の進路の1つとして、高校卒業・高卒認定資格取得を希望しているにもかかわらず、高卒認定試験の制度やステップアップ事業の認知がまだ十分とは言えない。インターネット検索が増加してきているので、必要とする人に情報が届くよう、チラシ配布箇所の増設も含めて、引き続き広報活動の工夫が望ましい。
- ・例年相談者の中には、特別な配慮が必要な方もいる。生育歴・家庭環境等、デリケートな面もあるので、今年度も本人の状況を確認しつつ丁寧に接し関わっていく。
- ・基礎学力の不足があり、特に中学校段階の学習の補完については、引き続き新設された夜間中学校との連携を視野に、学習相談者へ周知をしていきたい。
- ・学習会にオンラインで参加ができるようにしていきたい。

担当 小林 高義

2 重要な契約等に関する事項

指定管理関係

名 称 (契約期日)	内 容	契約の相手方	金 額 (円)
群馬県青少年会館の管理及び運営に関する基本協定 (令和7年3月26日)	指定管理者として群馬県青少年会館の管理及び運営を3年間（令和7年度～令和9年度）実施する上での基本項目の協定。	群馬県教育委員会 教育長	202,497,000
群馬県青少年会館の管理及び運営に関する年度協定書 (令和7年4月1日)	上記基本協定書に基づき、群馬県青少年会館の管理及び運営の1年間（令和7年度）の管理費用、特定業務等の協定。	群馬県教育委員会 教育長	67,499,000

受託事業関係

名 称 (契約期日)	内 容	契約の相手方	金 額 (円)
令和7年度青少年自立・再学習支援事業 「G-SKY P l a n」 (令和7年4月1日)	悩みを抱える青少年及び保護者に対して相談を行い、必要に応じて体験活動を実施するなどして生活を充実させ、不登校やひきこもりからの脱却や社会的自立を支援する。また、高校中退者等の再学習のための相談・支援体制の充実を図り、各種情報の提供を行う。	群馬県教育委員会 教育長	4,999,975
令和7年度青少年自立・再学習支援事業 「地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業」 (令和7年4月1日)	高校中退者等を対象とした学び直しのための支援を行う。 高校卒業程度認定試験等に関わる相談及び情報提供と、希望者に応じて会館での学習支援を行う。	群馬県教育委員会 教育長	2,700,000

3 役員会等に関する事項

(1) 理事会、評議員会

区 分	開催期日等	出席者数	議 事 事 項	審議結果
第 4 4 回 理事会 (定時)	令和 7 年 5 月 2 8 日	理事 8 名 監事 2 名	〔承認事項〕 第 1 号 令和 6 年度事業報告に関する件 第 2 号 令和 6 年度決算に関する件 〔決議事項〕 第 1 号 第 3 4 回評議員会(定時)の招集に関する件 〔報告事項〕 第 1 号 理事長及び常務理事の職務執行状況について	原案どおり承認 原案どおり承認 原案どおり決議 資料を基に報告
第 3 4 回 評議員会 (定時)	令和 7 年 6 月 2 0 日	評議員 4 名 理事 2 名 監事 1 名	〔報告事項〕 第 1 号 令和 6 年度事業報告について 第 2 号 理事長の職務の執行状況について 〔承認事項〕 第 1 号 令和 6 年度決算に関する件 〔決議事項〕 第 1 号 評議員及び理事並びに監事の選任に関する件	資料を基に報告 資料を基に報告 原案どおり承認 賛否を諮り決議
第 4 5 回 理事会 (臨時)	令和 7 年 6 月 2 0 日	理事 9 名 監事 1 名	〔報告事項〕 第 1 号 評議員及び理事並びに監事の選任状況について 〔決議事項〕 第 1 号 理事長、副理事長、常務理事の選定に関する件	資料を基に報告 延期について賛否を諮り決議
第 4 6 回 理事会 (臨時)	令和 7 年 6 月 2 8 日	理事 9 名 監事 1 名	〔決議事項〕 第 1 号 理事長、副理事長、常務理事の選定に関する件	互選により決議
第 4 7 回 理事会 (定時)	令和 8 年 3 月 1 2 日	理事 8 名 監事 2 名	〔決議事項〕 第 1 号 令和 8 年度事業計画に関する件 第 2 号 令和 8 年度収支予算に関する件 第 3 号 第 3 5 回評議員会(臨時)の招集に関する件 〔報告事項〕 第 1 号 理事長及び常務理事の職務執行状況について	原案どおり決議 原案どおり決議 原案どおり決議 資料を基に報告
第 3 5 回 評議員会 (臨時)	令和 8 年 3 月 2 7 日	評議員 5 名 理事 2 名 監事 2 名	〔決議事項〕 第 1 号 常務理事の報酬の変更について 〔承認事項〕 第 1 号 令和 8 年度事業計画に関する件 第 2 号 令和 8 年度収支予算に関する件 〔報告事項〕 第 1 号 理事長の職務執行状況について	原案どおり決議 原案どおり承認 原案どおり承認 資料を基に報告

(2) 運営委員会

区 分	開催期日等	議 事
第 1 回	令和 7 年 1 0 月 2 2 日	令和 8 年度事業計画 会館利用者を増加させるための取組について